

タイトル	日本自動車産業と総力戦体制の形成（八）
著者	大場，四千男；OHBA, Yoshio
引用	開発論集(108)：77-125
発行日	2021-09-30

日本自動車産業と総力戦体制の形成 (八)

大 場 四千男*

目 次

- 一章 ヒットラーとドイツの大衆車構想
 - 1 ドイツの「大衆車構想」VW 車開発
 - 2 ドイツ自動車工業
 - 3 ドイツ自動車業界の再編成
- 二章 日本の「大衆車構想」
 - 1 日産自動車構想 浅野源七
 - 2 軍部の大衆車構想とビッグ・スリーの抬頭
 - 3 国産車メーカーとビッグ・スリーとの競争
 - 4 商工省の大衆車構想
- 三章 満州事変と陸軍の自動車政策
 - 1 戦争の自動車動員令
 - 2 陸軍の自動車政策 —— 日露戦争
 - 3 陸軍の自動車政策 —— 第一次大戦と総力戦体制
 - 4 軍需工業動員法と軍用自動車構想
 - 5 陸軍整備局の自動車工業助成策 —— 中田佐一郎
 - 6 「軍用自動車補助法」と国産自動車産業の成立
 - 7 国産自動車メーカーの企業者群像
 - 8 関東大震災と輸入車黄金時代
 - 9 ビッグ・スリーの日本市場への参入
 - 10 日米合作運動と鮎川義介
- 四章 昭和期満州事変の自動車部隊編成と国産自動車の脆弱性
 - 1 日本 GM の販売・金融組織
 - 2 日本フォードの販売・金融組織
 - 3 自動車市場と国産自動車の衰退
 - 4 満州事変期陸軍省の自動車動員政策 —— 熱河作戦と伊藤久雄
 - 5 商工省の大衆車構想と岸信介、小金義照 (第 101 号)
- 五章 商工省・鉄道省の自動車政策
 - 1 近代的輸送網への始動 —— 鉄道からトラック・バスへの転換
 - 2 大衆車時代の発達 —— 近代的都市と近代的交通機関の内的連結
 - 3 総力戦の方針と農商務省の資源調査政策
 - 4 総力戦の方針と商工省の設立 —— 米騒動の歴史的意義
 - 5 商工省の産業政策と総力戦の準備
 - 6 商工省の自動車政策 —— 標準型式自動車の製造
 - 7 満州事変の軍用自動車部隊と総力戦における自動車動員問題

* (おおば よしお) 北海学園大学開発研究所特別研究員

- 8 標準型式自動車の共同生産と鉄道省の技術指導
- 9 鉄道省の自動車政策 —— 標準型式自動車の採用とバス事業の開始
- 10 ディーゼルエンジンの開発と輸送の大型化・高速化（第 102 号）
- 第六章 総力戦体制の再編成と満州支配
 - 序
 - 1 後藤新平の満鉄総裁就任と国家経済主義
 - 2 対支 21ヵ条要求と国家経済主義
 - 3 西原借款と国家経済主義
 - 小括（第 103 号）
- 第七章 第一次世界大戦の総力戦と日本陸軍の総力戦構想
 - 1 総力戦体制の起点と陸軍三人組
 - 2 小磯国昭の総力戦構想と「国防資源」論
 - 3 田中義一の総力戦構想と(南)支那視察と日支親善外交の推進, (1)「対支経営私見」及び
(2)「日支製鉄事業の共同経営に就て」
 - 4 (一)寺内正毅の総力戦構想と朝鮮総督
(二)寺内正毅の支那借款と東亞総力戦体制
(三)寺内正毅の軍用自動車補助法と軍需工業動員法による総力戦体制の形成（第 104 号）
- 第八章 軍用自動車補助法と軍用自動車の満州事変への動員
 - 1 満州事変から太平洋戦争への歴史的プロセス
 - 2 満州事変と関東軍自動車部隊の活躍
 - 3 満州事変における熱河作戦
 - 4 満州事変における河北境界方面作戦（第 105 号）
- 第九章 軍用自動車補助法の改正と輸送革命
 - 1 軍用自動車補助法の改正と輜重兵部隊の機械化＝自動車編成
 - 2 自動車の輸送革命と国産化運動
 - 3 自動車価格の動向と小運送業への自動車の影響（第 106 号）
- 第十章 国防国家と総力戦体制
 - 1 大正一昭和初期国防国家と総力戦体制
 - 2 総動員準備中央機関の変遷と国防国家強靱化過程
 - 3 総動員計画と資源の保育政策
 - 4 日満支の総力戦体制と国防国家強靱化政策（第 107 号）
- 十一章 長期分析論とその課題
 - 1 自動車製造事業法は何故制定されたのか —— 問題提起
 - 2 長期的分析論における人口論
 - (1) 江戸時代の人口問題と家族形態
 - (2) 資料「彦根大洞弁財天建立鳥目寄帳」前半

十一章 長期分析論とその課題

1 自動車製造事業法は何故制定されたのか —— 問題提起

自動車産業の成立, そして発展がアメリカのフォード, GM の発展を自由主義的資本主義を体現するものと位置づけることが出来るなら, 他方に於けるロシア, ドイツそして日本に於いて軍用自動車産業として発展を見ることとなり, 国家社会主義の強靱政策, つまり, 軍需産業の一環として生み出される。とりわけ, 日本に於いては国防国家として天皇制国家を成立させ

るが、明治憲法は政治体制として天皇制国家を(1)軍人勅諭に基づく国防国家と(2)教育勅語に基づく「億兆ノ師」、つまり絶対王政国家として二重の性格を内包する特異な欽定憲法として伊藤博文によって制定される。しかし、成立期の明治政府は財政基盤を地租改正に求め、ようやく国防国家と「億兆ノ師」=天皇制国家とを両輪にして東亜の大国として一步を踏み出す。したがって、日清戦争、さらに日露戦争への勝利は(1)軍人勅諭と(2)教育勅語に基づく天皇制国家を東亜の大国へ発達させるが、経済過程において半封建型資本主義を発達させることとなる。すなわち、近世の徳川封建社会が260年の歴史を刻むことになった最大の要因は租・庸・調の租税体系に支えられていることになるが、5割から6割に達する田租の高率に由るのである。

この5割前後の高率租税体系は徳川封建体制の維持・発展に次の二つの点で大きく影響する。第一は農業人口の増減に影響する点である。つまり、^{はやみ}速水 ^{あきら}融教授が『近世農村の歴史人口学的研究』で明らかにしたように、人口は初期の「中世型」から幕末の近世型へ移行して急増する。この人口形態の変化は大家族制（隸農抱込）から近世の小農民層（小家族制=家制度）への移行によるのである。

しかし、この人口形態及び家族形態の変化は明治維新期において徳川封建社会の^{いしずえ}礎となった租税率（田）5割を地租改正によって再生産され、近世の小農民層の農民層分解を促進し、地主=小作制を成立させると同時に、農村の過剰人口と零細農耕制とを発展させる契機となる。

ここに地租改正によって創出されるこうした零細農民（小作人、自小作人、小農民層）は農村での過剰人口として累積され、半封建的零細小農民として農村の中で分家として自立化しようとする。かくて、地租改正は徳川封建体制の半封建的零細農耕制を地主制の^{いしずえ}礎にすることで半封建的資本主義を日本型として生み出し、資本主義の発達を脆弱にする原因となる。

資本主義の発達への道が古典的なイギリス型と後進国型の日本とに類型化される時、この発達の両形態を分ける要因は何に求められるのであろうか。ここでは、それは農業資本主義の発達への二つの道に求められる。どうして、日本の農業は封建制から資本主義への移行においてイギリス型の3分割制農業資本主義を発達させることが出来なかったのであろうか。前述したように日本に於いては地主=小作制を中心とする半封建的零細農耕制が発達することになるが、その結果、満州事変→北支事変→大東亜戦争への拡大とその顕現化とは日本型農業資本主義の半封建的零細農耕制と農村過剰人口との両者を解決するため、移住農民の耕地を吸収して本家、或いは分家への自作農創出用土地として再利用しようとする農業政策として推進しようとすることによって生じるのである。このように、地租改正は農業の中核を成す稲作農家の農民層分解を地主=小作制の成立へ指向させ、と同時に、零細農民の過剰人口をも生み出し、資本主義農業を縮小再生産させる原因となる。したがって、地租改正は自動車を中心とする重化学工業の大衆市場をむしろ縮小させるように作用する。このため、自動車は大衆市場に依拠して拡大されるのではなく、むしろ、軍需市場或いは高級奢侈品市場として輸入される。日本ではアメリカの乗用車大衆市場の発達に支えられる国産自動車産業の歩みでなく、国家強靱の国防軍需産業として発展することとなる。

日本資本主義の中心産業を形成する農業と自動車産業はイギリスの3分割制農業、さらにアメリカの大衆車産業と相違する日本型産業として発達する。地租改正は近世の徳川封建体制を支えた5割の生産物地代を貨幣地代へ転化しても、その5割の租税率を明治6年に引継ぎ、天皇制絶対王政の財政基盤として位置づけられる。ここに、地租改正は近世の封建遺制を近代の財政基盤として再生され、資本の本源的蓄積過程の役割を果たすのである。それゆえ、地租改正は徳川封建体制を明治天皇制（絶対王政）の財政基盤の中心に据えられ、イギリス、アメリカの産業資本主義と相違する半封建的資本主義を生み出す契機となる。かくて、明治維新の長州と薩摩藩によるクーデターで設立される天皇制国家は最初から東亜の大国として登場し、日清戦争と日露戦争に勝利し、台湾、朝鮮、南満州そして樺太を領土として編入する。大正期に入ると、天皇制国家は第一次世界大戦に参戦し、大隈重信内閣による対支25ヶ条要求を支那政府に強要することで、世界列強との対立を深める。とりわけ、ポーツマス条約で日本に好意を示していたアメリカは対支25ヶ条要求に対して驚き、イギリスと共に日本の国際的膨張を抑え込み、日本包囲網の形成と支那からの撤退を国際条約或いは軍縮条約によって要求し、行動を強めようとする。

日本の国際的膨張は第一次世界大戦後に著しく強まり、シベリア出兵にその全体像を現わし始める。明治維新から大正、そして昭和にかけて日本の膨張主義が顕現化したのは移民に代表される人口増大の爆発的趨勢である。地租改正の重税を課す代りに農民は、(1)農業への緊縛から解放され、(2)結婚への自由時代を迎えるのである。この結果、農村は近代的小家族制と零細小農制とに基づく若年結婚のブームで人口爆発を生み、過剰人口の温床と化す。農村から都市への人口移動は、ここに都市人口の中に大量の下層労働者階層と下級商工業者層を沈澱させる要因と化す。

しかし、農村から都市への人口移動とその増殖は商工業の規模拡大と機械制工業での低賃金を一般化し、工場制の両極分解を生じさせ、中小企業と大企業への企業形態の分解を育んだ。とりわけ、機械の分業と協業に基づく工場制の普及は農村からの低賃銀労働者層と女工層の採用で、生産コストの低下から輸出ドライブの発生で、世界市場への進出を促すのである。とりわけ、繊維産業の生糸と木綿紡績工場は、こうした農村から流入する安い低賃銀者層と女工層とで漸次規模を拡大し、マニュファクチュア→機械制中小企業→企業合併による中堅企業へ発達して産業資本主義時代を生み出す。

それゆえ、明治時代から開始される人口爆発は一面、地租改正によって促進され、他面戸籍制度による家制度の発達で生じるのである。こうした明治時代から生じる人口爆発は大正から昭和時代に入ると、第一次世界大戦の反動不況と昭和2年の金融恐慌、さらに昭和5年の昭和恐慌の中で資源不足を深刻化させ、移民の奨励と満州事変の拡大とで解消されることの無いまま、戦争に解決を求め始める。その主要な過剰人口と過少資源の解決とを戦争に求め、大東亜共栄圏の形成に導こうとしたのが近衛文麿である。もし、人口爆発と過少資源とが存在しなかったら、近衛文麿と東条英機も大東亜共栄圏の形成のための大東亜戦争を行なわなかったで

あろう。

明治維新の近代は地租改正によって徳川封建体制の半封建構造を天皇制絶対王政の礎^{いしづえ}に組み込んだ。次に、大正から昭和にかけての人口爆発と過少資源は日本資本主義の大陸への膨張主義を生命線として南方を含む大東亜共栄圏の建設原因に転化する。しかし、敗戦を契機にする現代の日本は明治維新の王政復古から日米同盟への移行を余儀なくされる。しかし、令和の時代に入った今日において日本は逆にコロナと人口減少の危機を迎え、その脆弱な資本主義の発達に苦しみつつある。

現代日本の現状と発達を分析することは、これまで述べてきたように江戸時代の「近世」、さらに明治維新の「近代」の上に築かれる「現代」を把握することによって可能とされる。こうした長期歴史分析はより一層過去の「近世」と「近代」、さらにその上に築かれる「現代」の理解を可能にする有力な歴史方法であると考ええる。すなわち、長期歴史分析は、例えば日本の自動車産業の歴史を明らかにしようとする場合、その歴史環境の中に位置づけ、日本の特異な歴史に求められる自動車の導入過程と普及環境を明らかにすることで初めて日本型自動車産業の特異性と普遍性とを分析することを可能にされるものと考ええる。

したがって、この小論は自動車産業の歴史的発達を試みることになるが、その際、長期歴史分析を応用する一つの試論でもある。

2 長期的分析論における人口論

(1) 江戸時代の人口問題と家族形態

既に述べたように、長期的分析の課題は(1)人口論と(2)地租改正とであり、江戸時代の近世から明治維新の近代への移行、つまり、封建制から資本主義への移行における日本の特殊性を比較史的に分析することである。こうした長期的分析は結果として自動車産業の日本的成立とその発達の特異性を明らかにする有力な方法論となる。

江戸時代の人口論を取り挙げた先駆者は前述したように速水 融^{はやみ あきら}教授である。速水教授は江戸時代初期の“中世型”人口構造から幕末期の“近世型”人口構造への移行を宗門改帳の分析によって明らかにし、人口爆発の原因として家族制度の変化を次のように指摘する。

(イ) 近世型人口論

まず、これらの諸統計を通観していえることは、江戸時代のうちに進行した人口学的諸事実の変化の大きさである。人口総数はもちろんのこと、その構成内容、変動の諸率のすべてにわたって大幅な変化を示している。ここで取り扱った時代の初期、とくに1700年以前においては、農民の人口学的指標は18世紀後半以降のそれとはかなり違っている。おそらく、後進地帯のこの地域においては、17世紀末にはなお“中世”的性格が残存していたのであろう。この特徴は、およそ以下のごとく要約できるだろう。世帯の構成は、傍系家族を含むかなりの規模の大きい世帯と小規模世帯からなっている。前者の構成要員である傍系家族や下人は結婚率が低く、多くは独身である。したがって、彼らが多数を占めれば占めるほど全体としての有配偶率は低くなる。幼児の死亡率は非常に高く、数え年2歳児でも10歳までにその40～50%

は死亡している。そのため平均余命は短く、数え年での平均余命は30歳前後となる。また、年齢階層別死亡率は男子よりも女子のほうが全体として高く、これは女子の生活形態と関連があると考えられる。結婚年齢は低く、とくに女子においては平均16～17歳であった。人口の人為的制限はなかったから、1組の夫婦の産む子供の数は多く、この平均結婚年齢で50歳までに産んだ子供のうち少なくとも8人は数え年2歳になっている。数え年1歳での死亡を考えれば、おそらく総出生数は12人程度であったと思われる。出産率の最も高いのは21～25歳層であった。多産多死型の年齢構造ではエイジ・ピラミッドの底辺が広がり、典型的な富士山型をなしていた。

(速水融「近世農村の歴史人口学的研究」225頁)

この引用文から窺えるように信州諏訪地方は1700年以前に豪農(名主、村役人)の大家族制(従属隷農)と中産自作農(小農)の小家族との併存状態とを特色とする。こうした家族形態を特徴づける人口構造は下層農民の多産化による富士山型人口構造を生み出し、中世的構造と人口停滞として特徴づけられる。しかし、江戸幕府は農業への農民緊縛と「小農自立」の農業政策を展開し、分家への自立化と隷農民の小農層への独立を奨励する。さらに、5つ割の田作重税、伝染病の流行、自然災害、飢饉等が相互に影響し合い、人為的な出生制限(墮胎、間引)等は人口減少をもたらし、1780～1790年代において人口減少の危機を生んだ。かくて、江戸時代の人口構造は近世の小農の家族制度に支えられて静態的な人口維持を余儀なくされる。人口構造は小農の家族制度と家制度を中心にする近世的構造を確立し、明治維新を迎える。速水融教授は江戸時代の人口危機を契機とする近世的人口構造への転換を次のように指摘する。

小家族制のもとで与えられた人口増大の潜在力はなんら制限を受けることなく顕在化する。これこそ近世初期の人口爆発であり、諏訪地方においてもはっきりと確認される現象なのであった。

しかし、このような人口増大は、いつまでも続くものではない。工業化以前の社会では、とくに日本の場合のように一つのclosed economyのもとでは、人口増大を吸収すべき余地はしだいに窮屈なものとならざるをえない。さきにあげた条件のどれをとっても有限であり、年1%以上の人口増大をもってすれば比較的早く限界につき当たるのである。耕地面積の拡大は、平坦部においてはおそらく最も早く限界に達し、緩傾斜地や海岸干拓等の開発以外には耕地面積拡大は不可能となる。都市人口の増大も、輸送技術や制度上の制限から、ある上限に達するか、増加率が鈍化せざるをえない。もちろんこういった状況のもとでも、農村から都市への人口流入は続くのであるが、その率や量は低下するだろう。農業技術の集約化にしても、ある限界以上になることはできないだろう。江戸時代の農業は、当時の技術としては限界まで達した集約農業の典型であったことはしばしば指摘されているとおりである。

このような上限への到達の時期にはもちろん大きな地域差があったし、漸進的な性格のものであった。上限に近づくにつれて、それはいわゆる人口圧力となってさまざまな困難を人々に与えたであろう。それがどの程度人々に意識されたかは別として、上限への接近にともなって、人口増大を回避しようとする行動がいくつかみられる。平均結婚年齢(とくに女子)がややおそくなり、出稼がふえる。しかし、これだけではとうてい増加率を大きく引き下げることはできない。いまや人々は生活水準を低下させるか、それができなければ結婚率をドラスティックに引き下げ、大家族制へもどるか、なんらかの人為的な出生制限をおこなうべく選択を迫られる。この場合なにが選ばれるかは、もちろん「人口圧力」の大きさにも関係するだろう。概していえば、諏訪地方を含む中央山岳部から東北日本にかけてみられるのは、いわゆる墮

胎、間引きという制限であった。これは制限のうちでも最もシビアなものであり、とくに道徳的見地に立った場合そうであろう。加えて18世紀末には、日本の自然環境は悪化し、とくに中央部から東北部にかけて連続的な冷害、浅間山噴火等の災害が続いた。もろもろの人口学的指標は、1780～90年代に1つの人口危機とでもいうべき変化を記録している。この短期変動を含めて、人口増大が上限に到達した後の局面には確かに一種の悲惨さが映しだされていることは事実である。見せかけのうえでの生産力の大幅な低下は、いかに人為的制限が実施されたかの強い表現である。結婚年齢のいかに問わず、いまや子供の数は一定に近くなってしまった。出産力に関する諸指標は、ほとんどそれが人口を維持しうる最低水準にまで低下しているのである。

（速水融 前掲書 227～228 頁）

速水融教授が分析の対象とした長野県信濃地方はマニュファクチュア論争の産業先進地帯であり、とりわけ生糸、養蚕産業の農村工業発達地となって明治維新への発生源となったところである。それゆえ、農村工業の発達は明治時代に入ると、機械工場制へ発達する。さらに都市における富裕な商人層を中心にする株式会社制度の採用は機械制工場制と輸出市場、国内市場を巡って競争を激しくするが、寡占企業への推進力ともなった。したがって、これら農村工業のマニュファクチュアへの発展は近世的小農民とその小家族を担い手にする点や、イギリスのノーフォーク、サフォークの自生的農村工業の担い手である独立自営農民層と同じ経営形態である。ここにイギリスと類似の発達を歩む長野県信濃地方の農村工業は日本資本主義の自生的な発達を特徴づける一面でもある。

以上のように速水融教授の人口論は江戸時代から明治維新への移行を特徴づける長期分析方法として一つの方向性を示す有益な研究成果と云える。

したがって、次に速水融教授の人口論を世田谷を例にとりて東京近郊でも生じている点を次に検証する。

（2）資料「彦根大洞弁財天建立鳥目寄帳」前半

まず最初に試みる点は中世的な家族制度に基づく人口論である。世田谷二十ヶ村は彦根藩井



大洞弁天本殿

図表-2 「泛湖遂登大洞山」
頼 山陽

湖鳥雙々触櫓飛
扁舟容与憺忘歸
忽然憶起老菅句
更上洞山看落暉

伊家の飛地として彦根藩領として編入され、明治維新まで支配されている。対象とする資料は元禄8年(1695)に4代藩主井伊直興が病気を直すため、松島升順の勧告により弁天堂の建立を大洞の地に求め、その建設資金として一人1文宛の奉加金を募集する寄付帳、つまり、「彦根大洞弁財天建立鳥目寄帳」(世田谷式拾ヶ村分)の図表-1である。この図表-1「寄帳」には世田谷式拾ヶ村の総人口6,226名のうち734人(12%)が奉加金を寄付しているが、この734人は世田谷二拾ヶ村の主要な代官、名主、年寄等の村役人層(293名、40%)と残り60%の本百姓を含むのである。したがって近世の人口論はこれら上層農民、豪農の下人経営に支えられる大家族制と小家族制の混合形態を構成し、速水融教授の「中世型」を検証することが出来るので長文の資料図表-1「世田谷式拾ヶ村御帳」であるが、以下のように、次に掲げる。尚、前頁の図表-2は建立された大洞弁天本殿と頼山陽の「泛湖遂登大洞山」である。尚、引用資料の✓印は下人経営の家族構成であり、中世型地頭制度、つまり、地主直営地耕作の経営形態を表わしている。

[illegible]

同 弥 五 兵 衛
同 市 太 郎
同 三 太 郎
同 下女 か つ
同 さ つ
市左衛門屋敷守 権 右 衛 門
娘 こ ち よ
同 は ま

1 世田谷村

一、鳥目貳拾壹銭壹人前壹銭宛

名 主 ✓ 大 場 六 兵 衛
妻 兵 衛
悱 子 弥 兵 衛
妻 妻 かつ
六兵衛娘 か 三 左 衛 門
下 人 久 三 郎
同 同 六 市 介 蔵
同 同 太 郎 兵 衛
同 同 勘 八 蔵 介
同 女 ま つ ね
同 同 た ま め
同 同 か き ゃ す
同 同 る そ の
同 同 ま り さん

一、鳥目拾八銭壹人前壹銭宛

名 主 ✓ 宇 田 川 理 左 衛 門
妻 妻 や
娘 こ 久 之 丞
悱 子 久 ゆ わ
娘 権 権 介
下 人 金 三 郎
同 同 九 郎 兵 衛
同 同 権 四 郎
同 同 長 四 郎
同 同 与 右 衛 門
同 女 小 介 かつ
下 同 つ た
屋 守 弥 五 兵 衛

妻
母
弥 介

一、鳥目貳拾貳銭壹人前壹銭宛

名 主 ✓ 関 善 左 衛 門
妻 妻 左 衛 門
悱 子 半 太 郎
善左衛門兄 市郎左衛門
下 人 弥 五 兵 衛
同 同 弥 介 蔵
同 同 由 兵 衛
同 同 由 五 右 衛 門
同 女 い と
同 同 し ま
同 同 よ し

一、鳥目拾七銭壹人前市銭宛

年 寄 ✓ 石 田 重 兵 衛
妻 妻 兵 衛
母 母 次 郎
重兵衛悱子 小 三 郎
同 同 娘 小 つ め
同 同 下 人 傳 兵 衛
同 同 同 八 兵 衛
同 同 同 長 四 郎
同 同 同 由 兵 衛
同 同 同 八 三 介
同 女 た 介
同 同 た ま
同 同 つ つ
同 同 よ た
同 同 さ め
同 同 か

一、鳥目九銭壹人前壹銭宛

年 寄 ✓ 大 場 三 郎 左 衛 門
妻 妻 左 衛 門
母 母 作
三郎左衛門悱子 弥 ま つ
同 妹 同 三 郎
下 人 同 市 介
同 同 吉 右 衛 門
同 女 と め

一、鳥目五銭壹人前壹銭宛

年 寄 松 本 惣 左 衛 門
妻 妻 松
悱 子 竹

同 午
娘 ゆ き

一，鳥目拾錢老人前老錢宛
年寄 ✓ 丹 下 太左衛門
妻
母 七之介
同 牛之介
下 人 久左衛門
同 兵衛
同 三介
下 女 はつ
同 たつ

一，鳥目七錢老人前老錢宛
年寄 ✓ 榎 本 平左衛門
妻
母 ま ん
同 ゆ わ
下 人 権右衛門
下 女 なつ

一，鳥目拾五錢老人前老錢宛
年寄 ✓ 大 場 理右衛門
妻
父 孫右衛門
理右衛門娘 きよ次
同 梓子 左平衛門
下 人 甚左衛門
同 甚兵衛
同 八左衛門
同 德兵衛
同 権右衛門
同 仁介
下 女 なつ
同 かる
同 たま
同 ひさ

一，鳥目六錢老人前老錢宛
年寄 宇 田 川 喜左衛門
妻
母 権 介
同 娘 ゆ き
同 弟 弥五左衛門

一，鳥目拾錢老人前老錢宛
年寄 ✓ 大 場 吉右衛門
妻
梓子 善次郎

吉右衛門梓子 妻 松
同 姪 傳 三 郎
梓子 妻 七之介
同 山 三 郎
下 女 なつ

一，鳥目拾貳錢老人前老錢宛
年寄 ✓ 小 川 源左衛門
妻 源右衛門
梓子 妻
源左衛門娘 すてん
同 せ太郎
同 梓子 三太郎
源右衛門梓子 彦太郎
同 次郎
同 娘 はね
同 女 かつ
下 女 かや

一，鳥目九錢老人前老錢宛
年寄 ✓ 是 庭 彦兵衛
妻 母 之介
彦兵衛梓子 半之介
同 娘 六之介
同 娘 ぜう
同 下 人 をと蔵
同 喜兵衛

一，鳥目拾貳錢老人前老錢宛
権左衛門
妻 権左衛門
母 十介
同 梓子 文太郎
同 娘 とら
同 弟 佐次兵衛
同 甚兵衛
権左衛門弟 妻 七郎兵衛
甚兵衛梓子 七之介
同 娘 さく

一，鳥目七錢老人前老錢宛
市郎兵衛
妻 母 善兵衛
市郎兵衛梓子

一，鳥目七銭壱人前壱銭宛

同 太郎兵衛
同 三介
同 妹 しも

小 兵 衛
妻 かつめし
忒子 かとよ八吉
娘 同 忒子 弟 左衛門

一，鳥目五銭壱人前壱銭宛

次 郎 兵 衛
妻 佐 太 郎
忒子 娘 同 は ぎ さん

一，鳥目三銭壱人前壱銭宛

佐 左 衛 門
妻 と ら

一，鳥目六銭壱人前壱銭宛

権 十 郎
妻 たる ます
娘 同 権十郎孫 太 兵 衛
同 甥 金

一，鳥目五銭壱人前壱銭宛

吉 左 衛 門
妻 五 平 次
忒子 吉左衛門忒子 甚 之 介

一，鳥目六銭壱人前壱銭宛

忠 兵 衛
妻 由 兵 衛
忒子 娘 同 し げ ぬ め
同 と

一，鳥目五銭壱人前壱銭宛

✓ 庄 左 衛 門
妻 十 郎 兵 衛
忒子 下 人 妻 勘 三 郎

一，鳥目六銭壱人前壱銭宛

平 三 郎
妻 三 五 郎
忒子 同 権 ま 介 かつ
同 娘 由 兵 衛
同 忒子

一，鳥目貳銭壱人前壱銭宛

弥 兵 衛
母

一，鳥目六銭壱人前壱銭宛

太郎右衛門
妻 才 三 郎
忒子 才三郎娘 た ち ち よ
太郎右衛門弟 庄 三 郎
庄三郎娘 み い

一，鳥目三銭壱人前壱銭宛

八郎右衛門
妻 六 郎 平
忒子

一，鳥目九銭壱人前壱銭宛

✓ 六 左 衛 門
妻 金 右 衛 門
忒子 金右衛門忒子 妻 長 と め
同 娘 同 忒子 げ ん わ
同 娘 下 人 長 五 郎

一，鳥目八銭壱人前壱銭宛

✓ 勘 兵 衛
妻 母 孫 介
勘兵衛忒子 同 娘 同 忒子 や 清 兵 衛
同 娘 下 人 吉 左 衛 門
下 女 か かつ

一，鳥目五銭壱人前壱銭宛

権 右 衛 門
妻 く ま
忒子 娘 あ き
権右衛門姉 よ め

一，鳥目四銭壱人前壱銭宛

庄 九 郎
妻

一，鳥目五錢壺人前壺錢宛

ま か 子 悻
午 同

衛 郎 兵 太 仁 妻 勘 子 倅 娘 同
き ら あ と

一，鳥目七錢壹人前壹錢宛

✓	三	右	衛	門
妻	四	郎	兵	衛
娘	ぎ			ん
倅	権			介
同	三	太		郎
下	八	左	衛	門

一，鳥目七錢壺人前壺錢宛

子	八左衛門	藏
倅	妻長	門
同	八右衛門	郎
同	又兵三	
同	長妻	

一，鳥目四錢壺人前壺錢宛

介
らめ

長妻とか

子
悴娘

一，鳥目五錢壺人前壺錢宛

門衛左仁
蔵ねい
子
七たき
倅娘姉

一，鳥目拾錢壺人前壺錢宛

衛郎介すう郎衛衛ん
兵之や十兵兵
市妻太辰るち平猪五ご
✓
子
悴同娘同市兵衛下同同

一，鳥目七錢壺人前壺錢宛

✓ 勘右衛門

きくけく衛
や兵
妻ゆひすき与
子人
娘同悴娘下

一，鳥目六錢壹人前壹錢宛

✓ 久右衛門
 妻
 悴子 弥次右衛門
 妻
 衛門悴子 太郎兵衛
 下人 勘四郎

一，鳥目三錢壹人前壹錢宛

源 太 郎
妻 ま つ
娘

一，鳥目拾錢壺人前壺錢宛

	✓	弥	右	衛	門
	悻子	妻	惣	兵	衛
弥右衛門悻子		妻	儀	左	衛門
同		か			ん
同		午			
弥惣兵衛悻子		犬			松
下人		弥	五	兵	衛
下女		な			つ

一，鳥目七錢壹人前壹錢宛

門衛右六
 妻母
 娘門衛右六
 子悖同
 娘人
 傳つ長
 之
 介や介

一，鳥目九錢壹人前壹錢宛

郎門衛藏門太ね
三衛兵衛
忠妻安妻重竹勘つ
子粹子
粹
忠三郎同同同

一，鳥目三錢壹人前壹錢宛

久左衛門

一、鳥目三銭壱人前壱銭宛
 忼子 妻 久太郎
 娘 長右衛門 妻 よし

一、鳥目九銭壱人前壱銭宛
 忼子 七兵衛 妻 勘左衛門
 七兵衛忼子 妻 猪兵衛
 同 十左衛門
 同 むう
 勘左衛門娘 まん
 同忼子 金三郎

一、鳥目六銭壱人前壱銭宛
 忼子 五兵衛 妻 五左衛門
 五兵衛忼子 妻 九兵衛
 同 娘 ゆわ

一、鳥目五銭壱人前壱銭宛
 忼子 勘太郎 妻 勘兵衛
 娘 勘きく
 忼子 三左衛門

一、鳥目三銭壱人前壱銭宛
 忼子 才兵衛 妻 かん

一、鳥目七銭壱人前壱銭宛
 忼子 庄右衛門 妻 しやう
 娘 ぢやう
 忼子 かん
 同 門左衛門 妻

一、鳥目六銭壱人前壱銭宛
 忼子 彦六 妻 彦右衛門
 彦六忼子 妻 佐兵衛
 同 娘 かん

一、鳥目五銭壱人前壱銭宛
 忼子 久兵衛 妻 傳右衛門
 娘 しゃうぶ
 下女 さわ

一、鳥目四銭壱人前壱銭宛
 忼子 吉右衛門 妻 大介
 娘 かや
 与十郎

一、鳥目三銭
 一、鳥目三銭壱人前壱銭宛
 忼子 九左衛門 勘三郎
 娘 せん

一、鳥目拾壹銭壱人前壹銭宛
 下人 ✓ 源兵衛 妻 十郎
 同 傳市郎兵衛
 同 七兵衛
 同 五郎兵衛
 同 与兵衛
 同 六右衛門
 同 仁兵衛
 下女 たつね
 同 そ

一、鳥目六銭壱人前壹銭宛
 忼子 久四郎 妻 母
 同 久太郎 孫 四郎
 同 三之介

一、鳥目拾貳銭壱人前壹銭宛
 忼子 ✓ 弥兵衛 妻 猪兵衛
 娘 妻 たつき
 同 同 ゆり
 同 猪兵衛忼子 猪之介
 弥兵衛甥 三郎兵衛
 三郎兵衛忼子 妻 太郎
 下人 三九郎

一，鳥目七錢壹人前壹錢宛

	勘	兵	衛
忤子	奎左衛門		
	妻		
勘兵衛娘	ろ		く
同	い		ぬ
奎左衛門忤子	万	太	郎
同	七	之	介

一，鳥目三錢壹人前壹錢宛

権三郎
妻
母

一，鳥目三錢壹人前壹錢宛

衛 兵 吉
衛 兵 妻
子 八
悴

一、鳥目拾貳錢壹人前壹錢宛

父	儀三	右郎	衛門	門衛	門衛
母	文甚	右德	衛兵	門衛	門衛
兄弟	八長	あは	せあ	きつ	んま
下人	同	同	同	同	同
女	同	同	同	同	同

一，鳥目拾七錢壹人前壹錢宛

衛介衛兵衛郎藏衛つんち
兵之兵兵四四兵兵
次妻權庄と郎郎門与はまな久妻し
✓
子弟姪人女守
悴兵衛同下同下同下同下屋娘

一，鳥目九錢壹人前壹錢宛

門衛兵九之ち
仁妻六庄猪はふこま
子
悴同同娘同同同

一，鳥目貳錢壹人前壹錢宛

忠左衛門
母

一，鳥目八錢壹人前壹錢宛

門衛右喜
郎 十 妻
ん く 金
く 介 ごろ
介 介 七
入 入 三
正

子 悖同同同同
兄門衛右喜

一、鳥目四錢壹人前壹錢宛

七郎右衛門
妻
母
勘左衛門

一，鳥目八錢壹人前壹錢宛

衛門 兵衛 源妻 三へ 清庄 たく
 子 人 女
 倅 娘 下 同 下 同

一，鳥目五錢壺人前壺錢宛

門衛左七
介太
妻加千か
子
悴同娘

一、鳥目六錢壹人前壹錢宛

門衛 八右衛門
かくなち
妻さふはき
娘同侘子

一、鳥目四銭老人前老銭宛

三 十 郎
妻 兵 衛
父 次 母

一、鳥目八銭老人前老銭宛

✓ 平 右 衛 門
妻
母
平右衛門忒子 辰 之 介
同 弟 十 右 衛 門
同下人 長 蔵
下 人 三 介
下 女 ゆ き

一、鳥目六銭老人前老銭宛

長 兵 衛
妻
忒 子 長 左 衛 門
同 同 猪 之 介
同 同 喜 兵 衛
同 同 か ん

一、鳥目九銭老人前老銭宛

長 右 衛 門
妻
嬪 久 三 郎
妻 せ う
長右衛門娘 久三郎忒子 吉 三 郎
同 同 孫 は 介
下 女 つ つ
同 同 ま

一、鳥目五銭老人前老銭宛

次 左 衛 門
妻
忒 子 傳 介
娘 ろ く
娘 は な

一、鳥目拾六銭老人前老銭宛

✓ 猪 兵 衛
妻 之 介
忒 子 甚 之 介
同 同 万 之 介
娘 弟 同 宇 右 衛 門
同 下 人 源 之 介
同 同 權 四 郎
同 同 長 兵 衛
同 同 半 三 郎

同 忠 兵 衛
同 門 左 衛 門
下 女 か め
同 同 よ し
同 同 ま き
同 同 く に

一、鳥目七銭老人前老銭宛

九 左 衛 門
妻
母
忒 子 小 左 衛 門
同 同 勘 十 郎
娘 た ん ち よ
九左衛門弟 五 右 衛 門

一、鳥目六銭老人前老銭ツゝ

市 右 衛 門
妻
忒 子 十 三 郎
同 同 徳 介
娘 み つ
同 同 き よ

一、鳥目五銭老人前老銭ツゝ

市郎左衛門
妻
忒 子 権 兵 衛
同 同 五 郎
娘 ゆ わ

一、鳥目五銭老人前老銭宛

市 兵 衛
妻 七 郎 兵 衛
忒 子 は な
娘 同 と め

一、鳥目拾銭老人前老銭宛

✓ 権 左 衛 門
妻 庄 左 衛 門
忒 子 妻
娘 同 す て
同 同 か ん
忒 子 せ き
同 下 人 牛 之 介
同 同 次郎右衛門
同 同 權 四 郎

一、鳥目八銭老人前老銭宛

傳 左 衛 門
妻
忒 子 小 右 衛 門

	妻	
傳左衛門忰子	善右衛門	
同娘	よし	
小右衛門娘	はな	
下女	まき	
一，鳥目五錢老人前老錢宛		
	佐五兵衛	
	母	
弟	才兵衛	
	妻	
才兵衛娘	ゆき	
一，鳥目七錢老人前老錢宛		
	戸右衛門	
	妻	
忰子	三太郎	
同娘	弥之介	
同娘	あき	
同	ぢやう	
	ふ	
一，鳥目五錢老人前老錢宛		
	太郎兵衛	
	妻	
娘	よし	
姉	ゆき	
弟	権九郎	
一，鳥目四錢老人前老錢宛		
	八郎兵衛	
	妻	
娘	たつき	
同	さき	
一，鳥目四錢老人前老錢宛		
	六右衛門	
	妻	
同	つや	
忰子	三之介	
一，鳥目拾三錢老人前老錢宛		
	✓角左衛門	
	妻	
忰子	門左衛門	
	妻	
角左衛門忰子	次郎	
同娘	りん	
門左衛門娘	ゑん	
同	いね	
下人	長左衛門	
同	作兵衛	
同	長兵衛	
下女	くら	

	同	まつ
一，鳥目三錢老人前老錢宛		
	佐五右衛門	
	忰子	竹藏
娘	はつ	
一，鳥目六錢老人前老錢宛		
	✓徳左衛門	
	妻	
忰子	太郎	
下人	彦兵衛	
同	半兵衛	
下女	なつ	
一，鳥目八錢老人前老錢宛		
	七郎兵衛	
	妻	
娘	けい	さ
同	し	も
同	はな	
忰子	む	ま
姻	与四右衛門	
	妻	
一，鳥目四錢老人前老錢宛		
	権兵衛	
	妻	
忰子	牛之介	
同	猪之介	
一，鳥目五錢老人前老錢宛		
	✓津多都	
	妻	
忰子	次郎	
下人	安右衛門	
同	喜藏	
一，鳥目三錢老人前老錢宛		
	庄右衛門	
	妻	
	文太	
一，鳥目貳錢老人前老錢宛		
	善兵衛	
	妻	
一，鳥目拾錢老人前老錢宛		
	✓太郎左衛門	
	妻	
	母	
太郎左衛門忰子	之丞	
	妻	
太郎左衛門忰子	五郎右衛門	
同娘	ひさ	
甚之丞忰子	市之介	

	下人	八才	蔵兵衛
一，鳥目三銭壱人前壱銭宛	同		
		五郎兵衛	
		妻	
		母	
一，鳥目七銭壱人前壱銭宛			
		作右衛門	
		妻	
	弟	安兵衛	
		妻	
	作右衛門忒子	権介	
	同	六之助	
		ふう	
一，鳥目七銭壱人前壱銭宛			
		勘右衛門	
		妻	
	忒子	金兵衛	
		妻	
	勘右衛門忒子	権助	
	同	虎之助	
	同	七之助	
一，鳥目四銭壱人前壱銭宛			
		七郎右衛門	
		妻	
	忒子	権右衛門	
	娘	すぎ	
一，鳥目六銭壱人前壱銭宛			
		善兵衛	
		妻	
	忒子	久太郎	
	同	仁三郎	
	同	権之丞	
	娘	ゆり	
一，鳥目五銭壱人前壱銭宛			
		与次左衛門	
		母	
	与次左衛門弟	五兵衛	
	同従弟	平四郎	
		妻	
一，鳥目五銭壱人前壱銭ツゝ			
		与兵衛	
		妻	
	弟	権兵衛	
	与兵衛忒子	与蔵	
	同娘	きい	
一，鳥目七銭壱人前壱銭宛			
		惣九郎	

	父	妻	郎
		長三郎	
		妻	
惣九郎忒子		勘三郎	
同		勘太郎	
同		山三郎	
一，鳥目八銭壱人前壱銭宛			
		✓平兵衛	
		妻	
		母	
	平兵衛娘	さか	
	同	みね	
	同	ふく	
	下人	佐次右衛門	
	下女	すすて	
一，鳥目七銭壱人前壱銭宛			
		市郎右衛門	
		妻	
	忒子	九郎兵衛	
		妻	
	九郎兵衛忒子	勘之助	
	同	猪之助	
	同娘	たま	
一，鳥目七銭壱人前壱銭宛			
		門左衛門	
		妻	
	父	勘七	
	門左衛門忒子	勘之助	
	同娘	けさ	
	同	はつ	
	下女	たつ	
一，鳥目四銭壱人前壱銭宛			
		半左衛門	
		妻	
	娘	げん	
	半左衛門孫	山之助	
一，鳥目九銭壱人前壱銭宛			
		長左衛門	
		妻	
	鯉	善右衛門	
		妻	
	長左衛門娘	やす	
	同	ふり	
	同	たんな	
	善右衛門忒子	百之助	
	同娘	いぬ	
一，鳥目五銭壱人前壱銭宛			
		十郎右衛門	

	妻	
忤子	小三郎	
娘	けさ	
同	ゆり	
一，鳥目四錢老人前壱錢宛		
	喜右衛門	
	妻	
忤子	太郎	
同	勘助	
一，鳥目四錢老人前壱錢宛		
	市右衛門	
	妻	
忤子	長吉	
娘	はつ	
一，鳥目九錢老人前壱錢ツゝ		
	✓半兵衛	
	妻	
忤子	甚左衛門	
同	甚之助	
同	長三郎	
同人	勘三郎	
下	又右衛門	
同	作左衛門	
下	たん	
一，鳥目四錢老人前壱錢宛		
	金右衛門	
	源五右衛門	
	辰之介	
一，鳥目九錢老人前壱錢宛		
	奎左衛門	
	妻	
忤子	傳十郎	
	妻	
奎左衛門忤子	奎右衛門	
	妻	
傳十郎忤子	熊	
同娘	つ	なる
下	は	なる
一，鳥目六錢老人前壱錢宛		
	五兵衛	
	妻	
忤子	權之助	
娘	わかつし	
同	な	
	よ	
一，鳥目三錢老人前壱錢宛		
	市兵衛	
	妻	

	忤子	三四郎
一，鳥目拾錢老人前壱錢宛		
		長兵衛
		妻
		母
長兵衛御		長右衛門
		妻
長兵衛弟		清右衛門
		妻
同娘		よし
同		すき
清右衛門娘		ふ
一，鳥目八錢老人前壱錢宛		
		四郎右衛門
		妻
忤子		勘十郎
		妻
四郎右衛門忤子		金十郎
同		牛之助
勘十郎忤子		市蔵
同		六助
一，鳥目四錢老人前壱錢宛		
		勘右衛門
		妻
忤子		助
娘		てう
一，鳥目六錢老人前壱錢宛		
		傳兵衛
		妻
傳兵衛父		角左衛門
		妻
傳兵衛忤子		猪之助
同		たん
一，鳥目六錢老人前壱錢ツゝ		
		小右衛門
		妻
忤子		次郎兵衛
同		長吉
同娘		半三郎
		たつ
一，鳥目四錢老人前壱錢宛		
		七郎兵衛
		妻
忤子		甚介
娘		ま
一，鳥目六錢老人前壱錢宛		
		与兵衛
		妻

	忼子	権兵衛
		妻
	与兵衛忼子	猪之助
	権兵衛忼子	権太郎
一，鳥目五銭老人前壱銭宛		
		弥兵衛
		妻
	忼子	弥右衛門
		妻
	弥兵衛娘	ゆわ
一，鳥目七銭老人前壱銭宛		
		勘右衛門
		妻
	勘右衛門弟	助十郎
	同娘	でう
	同	ふり
	同	いぬ
	同	さき
一，鳥目四銭老人前壱銭宛		
		惣右衛門
	忼子	藤右衛門
		妻
	藤右衛門忼子	七之助
一，鳥目三銭老人前壱銭宛		
		所左衛門
		妻
	弟	由右衛門
一，鳥目四銭老人前壱銭宛		
		市兵衛
		妻
	忼子	市右衛門
		妻
一，鳥目六銭老人前壱銭宛		
		八兵衛
		妻
	八兵衛娘	母あまん
	同	かせん
	同	せん
一，鳥目六銭老人前壱銭宛		
		✓三郎兵衛
		妻
	忼子	弥太郎
	同	孫助
	娘	とめ
	下人	九左衛門
一，鳥目五銭老人前壱銭宛		
		次郎兵衛

		妻
	忼子	半之介
	同	山三郎
	同	大助
一，鳥目三銭老人前壱銭ツゝ		
		甚兵衛
		妻
	忼子	馬之助
一，鳥目三銭老人前壱銭ツゝ		
		✓奎右衛門
		妻
	下人	三助
一，鳥目四銭老人前壱銭宛		
		重兵衛
		妻
	忼子	長太郎
	娘	はな
一，鳥目五銭老人前壱銭宛		
		作左衛門
	忼子	三十郎
	三十郎忼子	妻うしり
	同	と
一，鳥目五銭老人前壱銭宛		
		長左衛門
	弟	平左衛門
		妻
	平左衛門忼子	平三郎
	同娘	かね
一，鳥目四銭老人前壱銭宛		
		甚五兵衛
		妻
	忼子	山之介
	娘	たん女
一，鳥目六銭老人前壱銭ツゝ		
		金左衛門
		妻
	忼子	源次郎
		妻
	金左衛門忼子	傳助
	源次郎娘	つめ
一，鳥目八銭老人前壱銭宛		
		忠左衛門
		妻
	忠左衛門忼子	次郎右衛門
		妻
	忠左衛門忼子	喜兵衛
		妻

忠左衛門忰子 う し
次郎右衛門忰子 三 太 郎

一，鳥目八錢忰人前忰錢宛

彦右衛門
妻
母
彦右衛門弟 虎 之 助
同 妹 あ き
彦右衛門忰子 彦 助
同 大 助
同 娘 け さ

一，鳥目六錢忰人前忰錢宛

市 兵 衛
妻
忰 子 清 右 衛 門
妻
市兵衛娘 た つ
同 甥 金 三 郎

一，鳥目八錢忰人前忰錢宛

孫 兵 衛
妻
忰 子 門 左 衛 門
妻
孫兵衛弟 角 兵 衛
妻
孫兵衛忰子 七 兵 衛
角兵衛忰子 三 之 助

一，鳥目六錢忰人前忰錢宛

長 左 衛 門
妻
母
長左衛門弟 甚 兵 衛
妻
同忰子 妻 德

一，鳥目六錢忰人前忰錢宛

金 十 郎
妻
忰 子 權 之 助
同 大 助
娘 せ う
同 し ゆ ん

一，鳥目五錢忰人前忰錢宛

四郎右衛門
妻
母
弟 佐 五 兵 衛
妹 こ ま

一，鳥目七錢忰人前忰錢ツゝ

✓ 六 左 衛 門
忰 子 平 左 衛 門
妻
平左衛門娘 こ ち よ
下 人 八
同 甚 介
下 女 い と

一，鳥目三錢忰人前忰錢宛

四 郎 兵 衛
妻
下 女 る す

一，鳥目九錢忰人前忰錢宛

✓ 權 左 衛 門
妻
忰 子 奎 左 衛 門
妻
權左衛門娘 は つ
同 と め
同 あ き
奎左衛門忰子 奎 助
下 人 權

一，鳥目八錢忰人前忰錢宛

吉 左 衛 門
妻
母
吉左衛門弟 半 兵 衛
妻
吉左衛門忰子 市 助
同 門 三 郎
同 喜 太 郎

一，鳥目三錢忰人前忰錢宛

長 太 郎
母
長太郎弟 と ら

一，鳥目八錢忰人前忰錢宛

次 郎 兵 衛
妻
弟 文 左 衛 門
妻
次郎兵衛忰子 門 助
同 娘 す き
同 や す
文左衛門娘 お く

一，鳥目六錢忰人前忰錢宛

五 兵 衛
妻
五兵衛弟 佐 次 兵 衛
同忰子 太 郎

	同	五	助
	同	四	郎
一、鳥目三銭壱人前壱銭宛		善	九 郎
		妻	
	甥	権	之 助
一、鳥目八銭壱人前壱銭宛		仁	兵 衛
		妻	
		母	
	仁兵衛弟	七	之 助
	同 娘	い	ぬ
	同	ま	き
	同	ミ	ね
	同 甥	辰	之 助
一、鳥目四銭壱人前壱銭宛		八	郎 兵 衛
		妻	
		母	
	八郎兵衛娘	ふ	き
一、鳥目八銭壱人前壱銭宛		✓ 彦	左 衛 門
		妻	
	弟	喜	兵 衛
	彦左衛門忒子	庄	
	同	三	之 助
	下 人	重	左 衛 門
	同	十	兵 衛
	下 女	ま	さ
一、鳥目七銭壱人前壱銭宛		市	兵 衛
		妻	
	忒 子	半	三 郎
		妻	
	市兵衛忒子	傳	
	半三郎忒子	甚	
	同 娘	か	や
一、鳥目七銭壱人前壱銭宛		八	兵 衛
		妻	
	忒 子	権	兵 衛
	娘	て	う
	同	し	ま
	同	や	す
	同	な	つ
一、鳥目拾壱銭壱人前壱銭宛		久	五 郎
		妻	

	母	
久五郎弟	八	藏
	妻	
久五郎弟	新	介
同忒子	久	太 郎
同	猪	之 介
同	六	藏
同	金	三 郎
娘	た	つ
一、鳥目六銭壱人前壱銭宛		三 右 衛 門
		勘 三 郎
		妻
三右衛門忒子	太	郎 兵 衛
勘三郎娘	み	称
同	な	つ
一、鳥目八銭壱人前壱銭宛		五 郎 兵 衛
		妻
弟	喜	左 衛 門
忒 子	由	兵 衛
	妻	
五郎兵衛忒子	市	藏
同	六	藏
同 娘	は	つ
一、鳥目貳銭壱人前壱銭宛		德 兵 衛
		母
一、鳥目六銭壱人前壱銭宛		平 右 衛 門
		母
平右衛門忒子	権	四 郎
同	五	右 衛 門
同	勘	
同	う	し
一、鳥目六銭壱人前壱銭宛		源 兵 衛
		妻
弟	七	兵 衛
源兵衛忒子	と	し
同 娘	り	ん
甥	六	介
一、鳥目六銭壱人前壱銭宛		権 兵 衛
		妻
		母
弟	七	藏
七藏忒子	権	介

一，鳥目七錢壺人前壺錢宛	同 娘 げ ん	勘 左 衛 門 妻 七 郎 兵 衛 傳 介 た ま 介 長 介
一，鳥目四錢壺人前壺錢宛	聲	太 右 衛 門 妻 勘 十 郎 妻
一，鳥目九錢壺人前壺錢宛	聲	重 兵 衛 妻 久 兵 衛 妻 九 十 郎 同 権 之 介 同 庄 之 介 久 兵 衛 娘 五 介 き
一，鳥目七錢壺人前壺錢宛	加 兵 衛 子 介 同 介 同 藏 同 兵 衛	加 兵 衛 妻 母 猪 之 介 八 介 八 介 仁 藏 兵 衛
一，鳥目六錢壺人前壺錢宛	長 兵 衛 妻 母 權 介 同 六 同 娘 あ き	長 兵 衛 妻 母 權 介 六 あ き
一，鳥目六錢壺人前壺錢宛	弟 勘 介 子 同 娘 同	庄 兵 衛 妻 勘 介 仁 藏 つ ま き あ
一，鳥目九錢壺人前壺錢宛		七 之 助

伯 父 母 半 三 郎 伯 父 妻 次 郎 兵 衛 半三郎娘 次 郎 兵 衛 二 郎 兵 衛 子 ま き 妹 八 藏 同 と き め く	一，鳥目六錢壺人前壺錢宛	安 右 衛 門 妻 之 介 牛 た ん 同 之 介 弟 虎 之 介
娘	一，鳥目三錢壺人前壺錢ツゝ	又 兵 衛 妻 た つ
子 同 娘	一，鳥目五錢壺人前壺錢ツゝ	三 左 衛 門 妻 之 介 虎 三 七 し も
娘 同	一，鳥目四錢壺人前壺錢宛	弥 惣 兵 衛 妻 か つ は つ
子 同	一，鳥目四錢壺人前壺錢ツゝ	金 右 衛 門 妻 金 藏 金 介
聲	一，鳥目六錢壺人前壺錢ツゝ	甚 五 左 衛 門 妻 甚 右 衛 門 妻 之 介 す 長 介
甚五左衛門娘 甚右衛門子	一，鳥目四錢壺人前壺錢ツゝ	猪 兵 衛 妻 勘 三 平
子 同	一，鳥目六錢壺人前壺錢宛	

八郎左衛門
 妻
 太 郎
 八 八
 きた く
 た つ

一、鳥目拾貳銭老人前壹銭宛

兵右衛門
 妻
 猪 兵 衛
 妻
 勘 兵 衛
 傳 兵 衛
 四 郎 兵 衛
 権 之 介
 卯 之 介
 い ぬ
 た つ
 猪 之 介

一、鳥目四銭老人前壹銭ツゝ

藤右衛門
 妻
 猪 之 介
 は な

一、鳥目八銭老人前壹銭宛

権 兵 衛
 母 兵 衛
 妻
 ま つ
 し も
 ミ い
 猪 右衛門

一、鳥目四銭老人前壹銭ツゝ

八左衛門
 妻
 半 之 介
 か る

一、鳥目五銭老人前壹銭ツゝ

市 兵 衛
 妻
 市 右衛門
 弥 五 兵 衛
 猪 之 介

一、鳥目四銭老人前壹銭ツゝ

四郎右衛門
 妻
 太 郎 兵 衛

娘 く に

一、鳥目拾壹銭老人前壹銭宛

惣左衛門
 妻
 母
 卯 之 介
 す て
 あ き
 け さ
 久 三 郎
 彦 左衛門
 与 藏
 長 藏

一、鳥目九銭老人前壹銭宛

次郎兵衛
 妻
 半 兵 衛
 妻
 孫 右衛門
 九 之 介
 な つ
 あ き
 百 松

一、鳥目七銭老人前壹銭ツゝ

✓ 九左衛門
 妻
 市 藏
 娘 ふ き
 同 ふ く
 同 よ し
 下 人 三 五 郎

一、鳥目七銭老人前壹銭ツゝ

清右衛門
 妻
 権 左衛門
 妻
 德 兵 衛
 妻
 よ し

一、鳥目拾三銭老人前壹銭ツゝ

✓ 庄右衛門
 妻
 七郎右衛門
 八 介
 あ ま
 五 兵 衛
 藤 兵 衛
 久 兵 衛

一，鳥目七錢老人前壱銭ツゝ	同 同 下 同 同	女 八 忠 し ち つ	兵 兵 衛 衛 な や や	衛 衛 な や や
一，鳥目四錢老人前壱銭ツゝ	忤 同 娘 娘 同	子 弥 妻 猪 三 へ よ こ	兵 之 介 之 介 や ね や	衛 介 介 や ね や
一，鳥目五錢老人前壱銭ツゝ	長右衛門娘	忤 子 傳 長 妻 ふ	兵 右 衛 門 妻 く	衛 門 藏 く
一，鳥目八錢老人前壱銭ツゝ	勘兵衛娘	聲 勘 妻 長 妻 や	兵 兵 衛 衛 す	衛 衛 す
一，鳥目四錢老人前壱銭宛	✓ 忤 同 娘 同 下 人	子 傳 妻 三 権 こ よ し 長	右 之 之 ち ゆ し ん 介	衛 介 介 よ し ん 介
一，鳥目七錢老人前壱銭ツゝ	兄 德左衛門娘	德 妻 勘 ぶ	左 右 衛 門 ん	衛 門 ん
一，鳥目四錢老人前壱銭宛	忤 同 同 娘	子 喜 妻 太 長 喜 次 は	右 郎 吉 之 郎 介 ね	衛 郎 吉 之 郎 介 ね
一，鳥目拾錢老人前壱銭ツゝ		七郎左衛門		

一，鳥目七錢老人前壱銭宛	七郎左衛門忤子 同 娘 弟	妻 母 三 し 佐 妻 五 甚 七	介 も 兵 郎 郎 之 介
一，鳥目四錢老人前壱銭宛	✓ 忤 子 門左衛門忤子 下 人 下 女	市郎左衛門 妻 門左衛門 妻 平 久 き	藏 藏 く
一，鳥目五錢老人前壱銭宛	長十郎娘 同	長 母 て ま	十 う り
一，鳥目四錢老人前壱銭宛	忤 同 同	五左衛門 妻 権 丑 六	郎 太 之 藏
一，鳥目五錢老人前壱銭宛	忤 子 下 女	四郎左衛門 妻 九 た	郎 十 つ
一，鳥目四錢老人前壱銭宛	長右衛門忤子	長 妻 勘 五	右 左 衛 郎
一，鳥目三錢老人前壱銭宛	忤 子 娘	弥次右衛門 妻 三 へ	郎 郎 や
	忤 子	佐五右衛門 妻 猪 之	門 之 介

一、鳥目四銭壱人前壱銭宛

市 郎 兵 衛
妻 権 介
忤 子 蔵
同 て き

一、鳥目四銭壱人前壱銭ツゝ

重 兵 衛
妻 長 太 郎
忤 子 蔵
同 才

一、鳥目八銭壱人前壱銭ツゝ

久 右 衛 門
妻 九 兵 衛
忤 子 妻
久右衛門忤子 平 四 郎
九兵衛忤子 久 太 郎
同 娘 き わ
同忤子 九 蔵

一、鳥目拾銭壱人前壱銭ツゝ

✓ 十良右衛門
妻 左 次 兵 衛
忤 子 妻
十良右衛門忤子 山 三 郎
左次兵衛忤子 長 松
下 人 左 右 衛 門
同 権 三 郎
下 女 す き
同 よ し

一、鳥目五銭壱人前壱銭ツゝ

半 三 郎
妻 半 四 郎
忤 子 介
同 市 之 介
同 権

一、鳥目拾壱銭壱人前壱銭ツゝ

✓ 傳 左 衛 門
妻 六郎左衛門
忤 子 虎 松
同 娘 と め
同 げ ん
娘 き よ
傳左衛門甥 山 三 郎
下 人 長 兵 衛
同 源 左 衛 門
下 女 あ き

一、鳥目六銭壱人前壱銭ツゝ

平 七
母 次 郎
平七弟 又 ん
同 妹 り
同 せ ん
下 女 ふ り

一、鳥目五銭壱人前壱銭ツゝ

与 左 衛 門
母 三 太 郎
与左衛門弟 権 六
同
同

一、鳥目五銭壱人前壱銭ツゝ

兵 左 衛 門
妻 太 郎 介
忤 子 傳 介
同 娘 き よ

一、鳥目八銭壱人前壱銭ツゝ

佐 左 衛 門
妻 六 右 衛 門
忤 子 妻
佐左衛門忤子 八 郎
六右衛門忤子 太 郎
同 卯 之 介
同 三 介

一、鳥目拾銭壱人前壱銭ツゝ

勘 左 衛 門
妻 弥 五 兵 衛
忤 子 妻
勘左衛門忤子 長 蔵
同 娘 は な
弥五兵衛忤子 辰 之 介
同 娘 せ ん
同 ふ り
同 い ぬ

一、鳥目七銭壱人前壱銭ツゝ

勘 右 衛 門
妻 母 兵 衛
勘右衛門婢 五 妻
勘右衛門忤子 長 松
同 娘 ち や う

一、鳥目七銭壱人前壱銭ツゝ

	半左衛門	
	妻	
忬子	八左衛門	
	同	午
同娘	半之介	
同	また	んつ
一，鳥目三銭	老人前	銭ツゝ
	作左衛門	
忬子	弥兵衛	
娘	さ	い
一，鳥目五銭	老人前	銭ツゝ
	奎左衛門	
	妻	
忬子	ふ	う
娘	や	す
奎左衛門弟	八郎兵衛	
一，鳥目六銭	老人前	銭ツゝ
	市郎兵衛	
	妻	
忬子	牛	
娘	は	つ
同	つ	や
市郎兵衛弟	善四郎	
一，鳥目七銭	老人前	銭ツゝ
	次左衛門	
	妻	
次左衛門忬子	弥五左衛門	
	妻	
弥五左衛門忬子	う	し
同	三	平
同娘	さ	る
一，鳥目七銭	老人前	銭ツゝ
	三右衛門	
忬子	久左衛門	
同	権三郎	
久左衛門娘	た	つ
同	よ	し
同	ち	やう
同	ふ	く
一，鳥目四銭	老人前	銭ツゝ
	理兵衛	
	母	
理兵衛弟	傳	
同	た	つ
一，鳥目四銭	老人前	銭ツゝ
	九兵衛	
	妻	

	忬子	太	郎
	娘	あ	き
一，鳥目四銭	老人前	銭ツゝ	
		久兵衛	
	忬子	妻	
娘	百	介	
		ちやう	
一，鳥目七銭	老人前	銭ツゝ	
		太郎右衛門	
	忬子	妻	
同	長	太	郎
同娘	か	ま	
同	八	介	
同	まい	り	
同	い	ぬ	
一，鳥目四銭	老人前	銭ツゝ	
	(原本この丁錯簡あり)	作兵衛	
	忬子	妻	
娘	太	郎	
		あ	き
一，鳥目四銭	老人前	銭ツゝ	
		久兵衛	
	忬子	妻	
娘	百	介	
		ちやう	
一，鳥目七銭	老人前	銭ツゝ	
		太郎右衛門	
	忬子	妻	
同	長	太	郎
同娘	か	ま	
同	まい	り	
忬子	い	ぬ	
同	八	介	
一，鳥目五銭	老人前	銭ツゝ	
	忬子	半兵衛	
	作兵衛	兵衛	
	作兵衛忬子	妻	
同	市	蔵	
		仁	蔵
一，鳥目七銭	老人前	銭宛	
		忠兵衛	
	忬子	妻	
同	鎌	介	
同	く	ま	
同娘	七	蔵	
同	け	介	
同	と	さら	
一，鳥目六拾三銭	老人前	銭宛	

禪宗豪徳寺住持	石 梁 和 尚
弟 子	国 現 長 老
同	秀 運 長 老
同	麟 容 長 老
同	嶺 淳 玄
同	黙 少 香
同	雲 鼎 隨
同	黙 德 岩
同	閻 瀟 長
同	文 澈 順
同	海 村 補
同	補 考 原
同	竊 龍 峯
同	秀 良 峯
同	全 學 賀
同	昌 慈 本
同	智 玄 道
同	洞 梁 堀
同	(ママ) 梁 門
同	秀 宗 嶽
同	黙 安 印
同	圓 悅 室
同	梁 九 郎
下 人	長 左 衛 門
同	源 右 衛 門
同	傳 右 衛 門
同	半 右 衛 門
同	平 右 衛 門
同	三 左 衛 門
同	八 介 介
同	市 七 左 衛 門
門 前	妻 七 郎 左 衛 門
七左衛門忒子	久 兵 衛
同	

門 前	加 右 衛 門
	妻 加 兵 衛
加右衛門忒子	同 四 郎
同	同 五 郎
門 前	清 兵 衛
	妻 妻 妻
清兵衛娘	す ま て
同	同 ま と す
同	同 と め
門 前	清 右 衛 門
	妻 仁 兵 衛
清右衛門忒子	同 犬 松
同	同 し を
同	
一、鳥目五銭老人前老銭宛	
禪宗常徳院住持	龍 寒 和 尚
弟 子	春 長 知
同	宗 宗 郎
下 人	長 太 郎
同	徳 左 衛 門
一、鳥目拾老銭老人前老銭宛	
禪宗善徳院住持	知 嶺
隱 居	秀 哲
下 人	権 三 郎
門 前	佐 五 右 衛 門
	妻 左 近
忒 子	左 近 忒子
	同 七 藏
	同 勘 介
	同 娘 を と 介
	つ た
一、鳥目老銭	
天台宗久成院住持	七 位
一、鳥目式銭老人前老銭宛	
真言宗仙蔵院住持	存 清
弟 子	圓 清
一、鳥目三銭老人前老銭宛	
浄土宗大吉寺住持	弁 哲 和 尚
弟 子	縁 求
下 人	八 右 衛 門
一、鳥目式銭老人前老銭宛	
真言宗圓光院留主居	✓ 元 春
	下 人 市 郎 兵 衛
人数	合 千六百拾三人
鳥目	合 老貫六百七拾七文
	但目銭共

一、鳥目七拾六錢老人前老錢宛

世田谷御朱印寺
禪宗勝光院住持

隆山和尚
博回峯潭忍
索石激
索來禪
了吞
作兵衛
甚右衛門
忠左衛門
九之介
小八郎
權右衛門
三左衛門
妻
勘三郎
市之介
あま女
三九郎
はな
甚九郎
長五郎
妻
母たんな女
るす
十郎右衛門
さく
母八右衛門
妻市郎右衛門
はる
六七蔵
八左衛門
きく
勘太郎
半右衛門
妻はつ
けき
千長兵衛

弟子

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

勝光院門前

悱子

同

娘

悱子

三九郎娘

同悱子

門前

長五郎娘

門前

妹

十郎右衛門

門前

八右衛門悱子

八右衛門悱子

同悱子

同

同

市郎右衛門娘

同悱子

門前

娘

同

悱子

門前

一、鳥目貳拾六錢老人前老錢宛

弦巻御朱印寺
禪宗実相院住持

索融和尚
索索了
太正入
正金右衛門
甚平介
兵左衛門
妻たん
虎之介
市兵衛
妻かつ
安右衛門
妻ま
作太夫

悱子

娘

同

同

同

同

同

下

門

悱子

娘

悱子

同

門前

悱子

善兵衛娘

同悱子

門前

悱子

同

娘

悱子

同

娘

姉

同

兄

三郎兵衛

三郎兵衛

三郎兵衛

三郎兵衛

三郎兵衛

三郎兵衛

三郎兵衛

三郎兵衛

三郎兵衛

三郎兵衛

三郎兵衛

三郎兵衛

三郎兵衛

三郎兵衛

三郎兵衛

三郎兵衛

三郎兵衛

三郎兵衛

三郎兵衛

三郎兵衛

三郎兵衛

三郎兵衛

妻 権 七
門 前
妻 母 兵 衛
門 前 仁 妻 り 乙
娘 子
恠 子

一、鳥目拾九銭壹人前壹銭宛
世田谷御朱印寺
眞言宗勝国寺住持
音 清 法 印
弟 子 智 智
同 音 智
同 存 智
同 春 仙
同 春 傳
同 奥 春
同 見 音
同 寂 吞
春 雅
宥 信
宥 叶
尊 盛
利 竟
涌 心
下 人 吉 兵 衛
同 同 佐 次 兵 衛
同 平 八
彦 兵 衛

一、鳥目拾銭壹人前壹銭ツ、
世田谷御朱印社
八幡宮神主
恠 子 大 場 伯 耆
同 九 十 郎
同 宇 右 衛 門
同 三 十 郎
同 虎 之 介
下 人 作 權 之 丞
同 与 四 兵 衛
下 女 た っ ま
同 っ ま

一、鳥目貳拾銭壹人前壹銭宛
豪徳寺江湖参居候出家
豆州吉佐義村
江 戸 月 山 和 尚
同 渭 北
同 本 牛
同 宗 源
同 栢 舟
同 雲 洞
同 竜 海
雷 音

同 靈 淵
同 江 沢
同 積 思
同 義 竿
同 舟 山
同 穩 山
同 補 蝸
同 雷 應
同 林 苗
同 春 興
同 玉 湛
平 村 竜 峯
作延村 堯 松

人数 合 百五拾貳人
鳥目 合 百五拾六銭

但目銭共

右者世田谷御領内御朱印所之寺社并豪徳寺江湖ニ
参居候出家壹人壹銭之寄進仕度由大場孫八名主六兵
衛ヲ以願被申候ニ付書入ル

2 弦 卷 村

一、鳥目五銭壹人前壹銭ツ、
年 寄 榎 本 惣 右 衛 門
恠 子 妻 次 兵 衛
娘 彌 次 兵 衛
同 ない つ
ぬ

一、鳥目七銭壹人前壹銭ツ、
年 寄 鈴 木 太 左 衛 門
恠 子 仁 左 衛 門
恠 子 千 太 郎
娘 ゆ ら
太左衛門弟 山 三 郎
同 弟 太 郎 兵 衛
妻

一、鳥目三銭壹人前壹銭宛
庄 右 衛 門
妻
母

一、鳥目七銭壹人前壹銭ツ、
四 郎 兵 衛
妻
母 勘 次 郎
同 弟 伊 之 松
同 娘 伊 松
同 娘 み い
す て

一、鳥目拾銭壹人前壹銭ツ、

一、鳥目六錢老人前壱銭ツゝ

平左衛門
妻
娘 倅子
平左衛門弟
同 弟
は つ
午之介
安左衛門
長兵衛

一、鳥目三錢老人前壱銭ツゝ

忠右衛門
妻
倅子
八兵衛

一、鳥目六錢老人前壱銭ツゝ

作左衛門
妻
倅子
同 娘
次郎介
小十郎
あまちな
は

一、鳥目五錢老人前壱銭ツゝ

半兵衛
妻
倅子
同 娘
三左衛門
三介
な っ

一、鳥目八錢老人前壱銭ツゝ

十左衛門
妻
母
十左衛門弟
弥右衛門
妻
十左衛門倅子
弥右衛門娘
同
太 郎
て う
あ ま

一、鳥目五錢老人前壱銭ツゝ

伊兵衛
妻
倅子
同 娘
甚之介
三 っ
な

一、鳥目五錢老人前壱銭ツゝ

久兵衛
妻
倅子
娘 同
長 蔵
こ ま
た っ

一、鳥目六錢老人前壱銭ツゝ

七郎左衛門
妻

娘 倅子
同 弟
こ ち よ
き わ く
ろ ま っ

一、鳥目貳錢老人前壱銭ツゝ

庄次郎
妻

一、鳥目八錢老人前壱銭ツゝ

次左衛門
妻
倅子
娘
次右衛門
妻
倅子
娘
伊之助
ね い
次右衛門
妻
十 蔵
せ き

一、鳥目八錢老人前壱銭ツゝ

半左衛門
妻
倅子
娘
同 倅子
同 娘
三 平
たい っ
い ね
な つ
む ま
後 家

一、鳥目四錢老人前壱銭ツゝ

忠左衛門
母
忠左衛門弟
同 妹
六右衛門
ま ん

一、鳥目六錢老人前壱銭ツゝ

七兵衛
妻
倅子
同 娘
長兵衛
次郎介
た ん ち よ
し も

一、鳥目拾八錢老人前壱銭ツゝ

甚左衛門
妻
母
甚左衛門娘
同 娘
甚左衛門弟
同 弟
甚左衛門
妻
た は
三 右
安 衛
妻 兵
く 衛
又 次
め 郎

	同	又	三	郎
	同	又	五	郎
	同	又	七	郎
甚左衛門兄		喜	兵	衛
同弟		傳	左	衛門
同弟		佐	次	兵衛
		妻		
忤子		弟		介
一，鳥目三錢老人前壹錢ツ、			金	三郎
			妻	
	忤子		勘	太郎
一，鳥目八錢老人前壹錢ツ、			市郎左衛門	
			妻	
	忤子		佐平次	
	同		ろく	
	同		長太郎	
	同娘		七之介	
	忤子		とめ	
			たつ	
一，鳥目六錢老人前壹錢ツ、		✓	次郎兵衛	
			妻	
	忤子		武右衛門	
	同		勝之助	
	下人		太郎左衛門	
	下女		すき	
一，鳥目六錢老人前壹錢ツ、		✓	吉右衛門	
			妻	
			母	
	吉右衛門忤子		市三郎	
	同忤子		二郎	
	下人		久藏	
一，鳥目五錢老人前壹錢ツ、			学南	
	浄土宗浄光寺住持		長天	
	弟子		松含	
	同		一心	
	同		七左衛門	
	下人			
一，鳥目貳錢老人前壹錢ツ、			常仙	
	日蓮宗常在寺住持		智元	
	隱居			
人数	合	貳百貳拾六人		
鳥目	合	貳百三拾四錢		
		但目錢共		

3 新町村

一，鳥目九錢老人前壹錢ツ、	年寄	志田	弥次右衛門
			母
		弥次右衛門弟	新五左衛門
		同弟	たつ
		同妹	ゆわ
		同妹	ちよ
		同弟	七之介
		同妹	よし
		同弟	喜八
一，鳥目四錢老人前壹錢ツ、	年寄	木村	甚三郎
		妹	ゆき
		弟	佐五兵衛
		同	宇右衛門
一，鳥目四錢老人前壹錢ツ、	年寄	田中	十郎右衛門
		伯父	長三郎
			妻
		長三郎娘	まん
一，鳥目六錢老人前壹錢ツ、	年寄	平居	次郎兵衛
			妻
		忤子	勘右衛門
			妻
		勘右衛門娘	はつ
		同忤子	次郎
一，鳥目拾壹錢老人前壹錢ツ、		✓	甚左衛門
			妻
		忤子	太郎兵衛
			妻
		甚左衛門忤子	虎之介
		同娘	くら
		同忤子	権介
		同娘	ふり
		同娘	まつ
		太郎兵衛忤子	万之介
		下人	七藏
一，鳥目八錢老人前壹錢ツ、		✓	兵右衛門
			妻
		忤子	安左衛門
			妻
		兵右衛門忤子	五左衛門
		安左衛門忤子	太郎

一、鳥目九錢	老人前	壱銭ツゝ	同娘下人	ゆ三	り介
				権右衛門	
			倅子	妻	郎
			同	五ふく	じめ
			娘	忠左衛門	め
			倅子	妻	門
	忠左衛門	倅子		権	之介
	同	娘		こ	ちよ
一、鳥目八錢	老人前	壱銭ツゝ			
			倅子	弥右衛門	衛門
				妻	
	弥兵衛	倅子		九	兵衛
	同	娘		した	も
	弥右衛門	娘		ん	ちよ
	同倅子			竹	松
	同	娘		せ	うふ
一、鳥目拾四錢	老人前	壱銭ツゝ			
				✓	吉右衛門
				妻	
			吉右衛門	母	
	同	娘		いぬちやう	
	同倅子			た	け
	同	弟		勘	六
	同	弟		源	兵衛
	同	弟		七	兵衛
				猪	兵衛
	猪兵衛	倅子		妻	
	同倅子			竹	之介
	下人			猪	之助
	下女			傳	門
				つ	ま
一、鳥目七錢	老人前	壱銭ツゝ			
				権	三郎
				妻	
			権三郎	母	
	同倅子			権	太郎
	同	娘		門	衛門
	同倅子			ち	やう
				六	右衛門
一、鳥目三錢	老人前	壱銭ツゝ			
			倅子	七	右衛門
	娘			角	左衛門
				まん	ちよ

一、鳥目拾壹錢老人前老錢ツ、	仁左衛門 妻市郎兵衛 三子 同娘 同娘 市郎兵衛娘 同娘 同娘 同甥	門衛兵衛 郎兵衛 十郎 とめ きく いぬちやう へきん きひ 作兵衛
一、鳥目四錢老人前老錢ツ、	三子 清右衛門 娘と	郎門 五衛 郎め
一、鳥目五錢老人前老錢ツ、	長兵衛 母惣二 惣二郎子	衛郎 兵二 惣介 七之
一、鳥目六錢老人前老錢ツ、	市子 同娘 弟	衛郎 兵五 郎吉 三つ な四 善郎
一、鳥目六錢老人前老錢ツ、	市郎右衛門 勘十郎 市郎右衛門子 勘十郎娘 同子	門衛 郎十郎 勘兵衛 妻やう 権ち郎 次郎
一、鳥目四錢老人前老錢ツ、	✓ 子人 下	衛郎 兵十 清五 妻八 八長
一、鳥目拾五錢老人前老錢ツ、	✓ 子 同娘 同	門衛 郎四郎 七半之 半午は はり

七郎右衛門弟 金 右 衛 門
妻
七郎右衛門弟 平 左 衛 門
同 弟 市郎左衛門
同 妹 ち や う
金右衛門娘 よ し
同 忒子 虎 之 助
同 忒子 半 之 介
同 娘 た つ
下 人 市 藏

一，鳥目四錢老人前沓錢ツゝ

清 三 郎
妻
忒 子 八郎左衛門
清三郎姉 後 家

一，鳥目貳錢老人前沓錢ツゝ

弟 牛 之 介
次 郎

一，鳥目五錢老人前沓錢ツゝ

長 左 衛 門
妻
忒 子 儀 右 衛 門
長左衛門忒子 妻 太 郎

一，鳥目三錢老人前沓錢ツゝ

✓ 平 三 郎
下 人 母 六 助

一，鳥目拾錢老人前沓錢ツゝ

半 七 良
妻
娘 あ き
半七郎妹 ま つ
同 弟 六
同 弟 猪 之 介
伯 父 兵 三 郎
妻
兵三郎忒子 十 兵 衛
娘 し も

一，鳥目七錢老人前沓錢ツゝ

忒 子 九 左 衛 門
三 郎 兵 衛
九左衛門忒子 妻 兵 衛
同 娘 甚 妻
三郎兵衛忒子 い ね
甚 之 介

一，鳥目八錢老人前沓錢ツゝ

門 三 郎
妻
母
門三郎娘 セ ん
同 弟 ふ じ
同 弟 勘 藏
同 弟 八 介
同 弟 長 吉

一，鳥目四錢老人前沓錢ツゝ

勘 兵 衛
妻
忒 子 母 猪 之 助

一，鳥目五錢老人前沓錢ツゝ

忒 子 次 兵 衛
同 才 兵 衛
同 次郎左衛門
妻
次兵衛娘 み や

一，鳥目八錢老人前沓錢ツゝ

安 兵 衛
妻
忒 子 牛 之 介
同 娘 さ ち
姪 同 よ し
忒 子 同 よ め
太 郎

一，鳥目拾貳錢老人前沓錢ツゝ

✓ 德 左 衛 門
妻
娘 け さ
同 ゆ き
同 は な
同 か ん
同 あ き
德左衛門弟 金 左 衛 門
妻
金左衛門娘 さ ん
同 娘 な ご
下 人 六 右 衛 門

一，鳥目八錢老人前沓錢ツゝ

作 兵 衛
妻
忒 子 母 之 介
作兵衛忒子 辰 介
同 娘 ふ す
同 娘 す て

一、鳥目八銭老人前壱銭ツゝ

同 娘 し も
同 妹 か ま

✓ 庄 兵 衛
妻 くら 衛
子 市 兵 衛
妻 山 三 郎
下 女 つ と ま り
下 同

一、鳥目七銭老人前壱銭ツゝ

多 左 衛 門
妻 母 け さ
娘 子 辰 之 助
悱 同 長 松
多左衛門弟 茂 左 衛 門

一、鳥目九銭老人前壱銭ツゝ

吉 兵 衛
妻 母 門 四 郎
吉兵衛弟 妻 猪 之 介
同 悱 弟 辰 之 助
同 妹 さ つ
同 從弟 小 右 衛 門

一、鳥目四銭老人前壱銭ツゝ

佐 平 次
娘 妻 は つ
佐平次弟 勘

一、鳥目八銭老人前壱銭ツゝ

✓ 猪 右 衛 門
妻 祖 母
猪右衛門娘 母 い ぬ
同 弟 作 十 郎
下 人 妻 長 兵 衛

一、鳥目三銭老人前壱銭ツゝ

七 之 助
伯 父 母 角 介

一、鳥目六銭老人前壱銭ツゝ

理 右 衛 門
妻 勘 三 次 郎
悱 子 同 娘 つ や
理右衛門妹 傳 左 衛 門

一、鳥目拾壱銭老人前壱銭ツゝ

半 左 衛 門
妻 源 右 衛 門
悱 子 同 同 娘 同 同 悱 子 同 姪 仁 兵 衛 郎 九 郎 り い う 之 介 郎 り
半 ま ね つ 辰 権 ふ

一、鳥目八銭老人前壱銭ツゝ

権 兵 衛
妻 金 三 郎
悱 子 権兵衛悱子 傳 之 介
金三郎悱子 源 太 良
同 悱 子 同 悱 子 五 藤 良 松

一、鳥目六銭老人前壱銭ツゝ

久 兵 衛
妻 猪 之 介
悱 子 娘 悱 子 同 ね ひ 之 介 牛 ぬ 松
い

一、鳥目八銭老人前壱銭ツゝ

喜 兵 衛
妻 た ね
娘 喜兵衛 三 右 衛 門
三右衛門娘 妻 と り
同 悱 子 同 娘 長 け さ

一、鳥目拾銭老人前壱銭ツゝ

✓ 傳 兵 衛
妻 つ ま
娘 悱 子 喜 之 介

	娘 傳兵衛弟	さん 七郎左衛門	ご る
	同 妹	さ	る
	同 弟	六	
	下 人	奎 兵衛	
	同	甚 兵衛	
一、鳥目六錢老人前老錢ツ、		甚五左衛門	
		妻	
	忤 子	八 十 郎	
	娘	あ き	
	忤 子	虎 之 介	
	同	權	
一、鳥目五錢老人前老錢ツ、		吉 左 衛 門	
		妻	
	忤 子	新 り	六 よ
	娘	か	る
	下 女		
一、鳥目七錢老人前老錢ツ、		善 兵 衛	
		妻	
	娘	ぢ や う	
	忤 子	市 十 郎	
	善兵衛弟	八 兵 衛	
		妻	
	善兵衛妹	よ	ね
一、鳥目六錢老人前老錢ツ、		八 右 衛 門	
		妻	
	忤 子	は ち	
	八右衛門弟傳左衛門	後 家	
	同 甥	午 之 介	
	同	次 郎	
一、鳥目八錢老人前老錢ツ、		✓ 孫 兵 衛	
		妻	
	忤 子	理 兵 衛	
	同	源 之 介	
	聲	半 兵 衛	
		妻	
	娘	ゑ ん	
	下 人	三 左 衛 門	
一、鳥目貳錢老人前老錢ツ、		禪宗善養院住寺 (ママ)	
		隠 居	
		国 田	
		門 朔	
	人数	合 三百三拾貳人	
	鳥目	合 三百四拾四錢	

但目錢共

4 用 賀 村

一、鳥目拾老錢老人前老錢ツ、

名 主	✓ 飯 田 弥 右 衛 門
	妻
娘	せ ん
忤 子	弥 之 助
娘	つ や
忤 子	重 次 郎
娘	し な
下 人	彦 右 衛 門
下 人	長 兵 衛
同 下	才 兵 衛
下 女	う ば

一、鳥目八錢老人前老錢ツ、

年 寄	飯 田 八郎右衛門
	妻
忤 子	助 左 衛 門
同	善 右 衛 門
娘	よ し
同	こ ち
同	ふ う
同	と ら

一、鳥目拾錢老人前老錢ツ、

年 寄	✓ 飯 田 傳 兵 衛
	妻
娘	さ ま
忤 子	傳 介 め
娘	と 庄
忤 子	か の
同	虎 之 助
弟 下 人	長 四 郎
同	十 三 郎

一、鳥目七錢老人前老錢ツ、

年 寄	金 子 源 左 衛 門
	妻
忤 子	源 右 衛 門
同	市郎右衛門
	妻
市郎右衛門娘	た ん
同	き い

一、鳥目六錢老人前老錢ツ、

	✓ 次郎左衛門
	妻
忤 子	平 次 郎
同	い の

一、鳥目六銭老人前壱銭ツ、

姪 ち や う
下 人 七 蔵

長 兵 衛
妻 は な
は く に
さ い
か な

娘 同 妹 同

一、鳥目拾貳銭老人前壱銭ツ、

庄 右 衛 門
妻 兵 左 衛 門
権 之 介
七 三 郎
か ん
か な
き よ
金 右 衛 門
妻 夫 夫
き く

父 庄右衛門忒子
同 娘 同 弟 金右衛門娘
同

一、鳥目六銭老人前壱銭ツ、

猪 右 衛 門
妻 元 介
さ る
新 あ 介
ま

忒 子 娘 忒 子 姉

一、鳥目八銭老人前壱銭ツ、

✓ 三郎右衛門
妻 弥 三 郎
八 蔵
長 三 郎
な ま つ
ま つ

忒 子 下 下 人 女 同 同

一、鳥目九銭老人前壱銭ツ、

✓ 甚五右衛門
妻 熊 之 介
三 郎
権 介
又 右 衛 門
午 三 郎
六 蔵
な つ

忒 子 同 同 下 人 同 同 下 女

一、鳥目拾銭老人前壱銭ツ、

✓ 七 郎 兵 衛
妻 う ま
虎 甚 か ん
か こ ち よ
り ん
七 蔵
長 右 衛 門

忒 子 同 同 娘 同 同 下 人 同

一、鳥目拾銭老人前壱銭ツ、

✓ 甚 左 衛 門
妻 平 左 衛 門
妻 甚 太 郎
す る 介
七 蔵
ひ さ
な つ

父 甚左衛門忒子
同 娘 同 下 人 同 下 女 同

一、鳥目拾銭老人前壱銭ツ、

✓ 武 右 衛 門
妻 母 さ る
さ 四 郎
与 傳 兵 衛
才 ミ や
つ ま
あ ま

武右衛門娘
同忒子
同下 人 同 下 女 同 同

一、鳥目七銭老人前壱銭ツ、

作 左 衛 門
妻 い ぬ
つ ち
か ま
安 左 衛 門
妻

娘 同 忒 子 同

一、鳥目貳銭老人前壱銭ツ、

三 四 郎
す て

娘

一、鳥目七銭老人前壱銭ツ、

六 右 衛 門
妻 さ か

娘

忤子 与 作
 同 三 之 介
 同 与 五 介
 同 弟 介
 一、鳥目五錢老人前壱銭ツ、
 ✓ 惣兵衛
 母
 惣兵衛妹 ふ く
 同 は な
 下 人 又 右衛門
 一、鳥目八錢老人前壱銭ツ、
 六兵衛 後 家
 忤子 三 十 郎
 同 弥 五 介
 六兵衛弟 与 四右衛門
 妻
 与四右衛門娘 し け
 同 ゆ ら
 同忤子 与 作
 一、鳥目七錢老人前壱銭ツ、
 喜兵衛
 妻 九 十 郎
 忤子 同 虎
 同 金 左衛門
 喜兵衛兄 妻 佐 次 兵衛
 一、鳥目九錢老人前壱銭ツ、
 ✓ 権兵衛
 妻
 娘 は な
 忤子 久 兵衛
 久兵衛娘 妻 さ つ
 同 ゆ り
 同 た ま
 下 人 権 四 郎
 一、鳥目三錢老人前壱銭ツ、
 空 左衛門
 妻
 忤子 三 之 介
 一、鳥目拾壱銭老人前壱銭ツ、
 十 兵衛
 妻
 母
 十兵衛娘 た ね
 同忤子 次 郎
 同 し か 蔵

同 与 四 蔵
 十兵衛弟 権 四 郎
 同 清 妻 蔵
 清蔵娘 せ ん
 一、鳥目貳錢老人前壱銭ツ、
 吉 左衛門
 忤子 彦
 一、鳥目五錢老人前壱銭ツ、
 山 三 郎
 妻 た ん
 娘 同 た ね
 同 同 ふ く
 一、鳥目五錢老人前壱銭ツ、
 九 右衛門
 妻 妻
 こ ち よ
 三 六 介
 一、鳥目拾錢老人前壱銭ツ、
 久 左衛門
 妻 母
 久 次 郎
 久左衛門忤子 同 娘 し や う
 同 同 姉 ま
 同 同 妹 ま
 同 同 甥 善 兵衛
 同 同 と ね
 一、鳥目五錢老人前壱銭ツ、
 ✓ 源 兵衛
 妻 妻
 忤子 百 介
 下 人 久 五 郎
 下 女 い わ
 一、鳥目六錢老人前壱銭ツ、
 空 右衛門
 妻 妻
 娘 同 ひ さ
 忤子 同 あ き
 空右衛門從弟 傳 介
 一、鳥目六錢老人前壱銭ツ、
 太 兵衛
 母 母
 太兵衛忤子 傳 七

同 弟 文 左 衛 門
 文左衛門娘 ま つ
 同 さ ま
 一、鳥目九銭壱人前壱銭ツ、
 半 三 郎
 妻
 半三郎弟 次 兵 衛
 妻
 次兵衛忒子 市
 同 庄 次
 同 与 平
 娘 七
 同 ミ の
 一、鳥目七銭壱人前壱銭ツ、
 弥惣左衛門
 妻
 母
 弥惣左衛門妹 な つ
 同 兄 与 兵 衛
 妻
 与兵衛忒子 う ま
 一、鳥目五銭壱人前壱銭ツ、
 久 右 衛 門
 妻
 娘 こ ち よ
 同 さ ま し
 同 よ し
 一、鳥目七銭壱人前壱銭ツ、
 太郎右衛門
 妻
 娘 は な
 忒子 才 三 郎
 妻
 才三郎娘 ね い
 同忒子 八 十 郎
 一、鳥目拾壱銭壱人前壱銭ツ、
 喜 右 衛 門
 妻
 忒子 奎 左 衛 門
 妻
 奎左衛門忒子 庄 兵 衛
 同 せ ん
 同 権
 同 娘 し や う
 同 と ら
 同 く に
 同 よ し
 一、鳥目拾四銭壱人前壱銭ツ、

庄 左 衛 門
 妻
 忒子 金 左 衛 門
 妻
 金左衛門娘 よ し
 同 を な
 庄左衛門弟 門 三 郎
 同 清 十 郎
 妻
 清十郎娘 ね い
 庄左衛門弟 加 右 衛 門
 妻
 加右衛門娘 い ぬ
 同 さ る
 一、鳥目八銭壱人前壱銭ツ、
 傳 左 衛 門
 妻
 母
 傳左衛門娘 ふ う
 同 妹 か つ
 同 弟 宇 右 衛 門
 妻
 下 人 権 四 郎
 一、鳥目拾壱銭壱人前壱銭ツ、
 權 右 衛 門
 妻
 娘 よ う し
 忒子 う ま
 同 仁 兵 衛
 妻
 仁兵衛娘 い ぬ
 下 人 長 吉
 同 理 右 衛 門
 下 女 ち や う
 同 き く
 一、鳥目四銭壱人前壱銭ツ、
 次 郎 兵 衛
 妻
 忒子 次 郎
 娘 き い
 一、鳥目九銭壱人前壱銭ツ、
 久 左 衛 門
 妻
 忒子 太 左 衛 門
 娘 こ ち よ
 同 つ ち
 同 ま て
 久左衛門弟 甚 兵 衛

妻
 甚兵衛 忰子 甚
 一、鳥目五錢 忰人前 壹錢ツゝ、
 市郎左衛門
 妻
 娘 忰子 熊 兵衛 門
 市郎左衛門弟 兵 右 衛 門
 一、鳥目拾式錢 忰人前 壹錢ツゝ、
 太 郎 兵 衛
 妻
 忰子 次 左 衛 門
 妻
 次左衛門 忰子 甚 太 郎
 同 同 三 太 郎
 同 同 弥 太 郎
 同 娘 与 四 郎
 同 同 し く な
 同 同 ね い
 同 同 は な
 一、鳥目四錢 忰人前 壹錢ツゝ、
 半 兵 衛
 母 猪 兵 衛
 半兵衛兄 同 妹 ま て
 一、鳥目八錢 忰人前 壹錢ツゝ、
 市 右 衛 門
 妻 へ ん
 娘 忰子 娘 ぬ
 下 人 勤 兵 衛
 下 女 な つ
 同 同 か な
 一、鳥目七錢 忰人前 壹錢ツゝ、
 五 兵 衛
 妻 三 郎
 忰子 同 權 十 郎
 傳十郎 忰子 同 娘 妻 四 郎
 同 娘 こ ち よ
 一、鳥目六錢 忰人前 壹錢ツゝ、
 孫 左 衛 門
 妻 と り
 娘 忰子 い せ

同 德 兵 衛
 妻 妻
 一、鳥目八錢 忰人前 壹錢ツゝ、
 久 藏
 妻 母 傳 介
 久藏 忰子 同 娘 き い
 同 弟 な つ
 同 姪 八 蔵
 一、鳥目六錢 忰人前 壹錢ツゝ、
 九郎右衛門
 母 し
 九郎右衛門娘 同 弟 猪 左 衛 門
 同 同 妹 し や う
 同 同 は ま
 一、鳥目三錢 忰人前 壹錢ツゝ、
 門 三 郎
 妻 権
 忰子
 一、鳥目五錢 忰人前 壹錢ツゝ、
 彦 右 衛 門
 妻 は つ
 娘 同 忰子 ま つ
 同 同 三 八
 一、鳥目七錢 忰人前 壹錢ツゝ、
 喜 左 衛 門
 妻 い わ
 忰子 同 娘 傳 八
 同 娘 よ ね
 同 姪 し ま
 一、鳥目五錢 忰人前 壹錢ツゝ、
 七 兵 衛
 妻 十 左 衛 門
 父 同 忰子 三 蔵
 同 同 九 十 郎
 一、鳥目六錢 忰人前 壹錢ツゝ、
 市 三 郎
 妻 太 郎
 忰子 娘 太 け さ
 忰子 三 太 郎

娘 ま ん

一、鳥目六銭老人前壱銭ツ、

庄 九 郎
妻
悻 子 庄 之 助
同 庄 三 郎
同 庄 次 郎
同 源 四 郎

一、鳥目四銭老人前壱銭ツ、

長 左 衛 門
妻
母
長左衛門悻子 す け

一、鳥目三銭老人前壱銭ツ、

德 右 衛 門
妻
悻 子 次 郎

一、鳥目七銭老人前壱銭ツ、

七郎左衛門
妻
悻 子 く め 之 介
同 う し
同 午 之 介
娘 た つ
悻 子 五 郎 八

一、鳥目拾四銭老人前壱銭ツ、

✓ 五郎右衛門
妻
母
悻 子 五 郎 介
同 三 之 介
娘 か ね り
同 ふ
下 人 德 左 衛 門
同 八 市 十 郎
同 又 蔵
下 女 は つ
同 け さ
下 女 な つ

一、鳥目四銭老人前壱銭ツ、

甚五左衛門
妻
娘 は つ
悻 子 甚 介

一、鳥目貳銭老人前壱銭ツ、

八 右 衛 門
妻

一、鳥目拾銭老人前壱銭ツ、

九 兵 衛
悻 子 小 兵 衛
同 同 虎
九兵衛妹 た ね
吉兵衛 後 家
同悻子 市 兵 衛
同 娘 く り
同 よ ね
同 ま つ
同悻子 三 吉

一、鳥目六銭老人前壱銭ツ、

仁 左 衛 門
妻
母
仁左衛門悻子 長 太
同 長 五 郎
同 ち よ

一、鳥目三銭老人前壱銭ツ、

五 左 衛 門
妻
悻 子 権 三 郎

一、鳥目九銭老人前壱銭ツ、

✓ 清 右 衛 門
妻
悻 子 太 兵 衛
太兵衛娘 よ し
同 へ ん
下 人 善 四 郎
同 八 右 衛 門
同 ち や う

一、鳥目拾貳銭老人前壱銭ツ、

佐五右衛門
妻
母
佐五右衛門娘 た ね
同 は な
佐五右衛門兄 市 兵 衛
妻
市兵衛悻子 市
同 ま て
同 さ つ
同 長 権 吉

一、鳥目六銭老人前壱銭ツ、

作 兵 衛
妻

	作兵衛父	弥兵衛	
	作兵衛娘	妻 ちやう	
	同	い せ	
一、鳥目拾壹銭老人前壹銭ツ、			
	忤子	茂右衛門	
	同	八兵衛	
	娘	ふ じ	
	忤子	は な	
		長右衛門	
		妻	
	長右衛門忤子	う し	
	同	せ ち	
	茂右衛門忤子	喜 平 次	
		妻	
	嘉平次忤子	太 郎	
一、鳥目九銭老人前壹銭ツ、			
		庄左衛門	
	父	妻	
	庄左衛門娘	佐左衛門	
	同	し も	
	庄左衛門妹	は な	
	庄左衛門舅	は つ	
		権 兵 衛	
		妻	
	権兵衛忤子	さ の	
一、鳥目八銭老人前壹銭ツ、			
		清 兵 衛	
	父	妻	
	清兵衛忤子	七右衛門	
	清兵衛弟	三 介	
		五 郎 兵 衛	
		妻	
	五郎兵衛忤子	吉右衛門	
		妻	
一、鳥目八銭老人前壹銭ツ、			
		三郎左衛門	
	忤子	妻	
	三郎左衛門伯父	や ま	
		作 十 郎	
	作十郎忤子	妻	
	同	ふ ぢ	
	同	牛 くら	
一、鳥目六銭老人前壹銭ツ、			
	✓ 娘	弥五兵衛	
		妻	
		し や う	

	同 下 人	しま 仁 兵 衛	も て
一、鳥目六銭老人前壹銭ツ、			
		半右衛門	
		妻	
	半右衛門忤子	母 せ ん	
	同	次 郎	
	同	三 吉	
一、鳥目七銭老人前壹銭ツ、			
		与 兵 衛	
	忤子	妻 猪 兵 衛	
	同	妻 猪 兵 衛	
	猪兵衛忤子	八 次 郎 介 作	
	娘	同 権	
一、鳥目八銭老人前壹銭ツ、			
		十右衛門	
	娘	妻 た ん	
	同	こ こ	
	同	八 女 蔵 衛	
	十右衛門弟	同 妻	
一、鳥目七銭老人前壹銭ツ、			
		三 郎 兵 衛	
	三郎兵衛娘	妻 母 う め	
	同	同 傳 と さ	
	同	を ひ	
一、鳥目六銭老人前壹銭ツ、			
		猪 兵 衛	
		妻 母	
	猪兵衛娘	か つ も	
	同	し う め	
一、鳥目五銭老人前壹銭ツ、			
		庄 兵 衛	
	忤子	妻 庄 吉	
	娘	く に	
	忤子	弥 四 郎	

一、鳥目七銭老人前屯銭ツ、

勘右衛門
妻
娘 忤子 同 同
か 三 い 才
つ 吉 の 兵 衛
妻

一、鳥目五銭老人前屯銭ツ、

五郎左衛門
妻
忤子 娘
五郎 作
いぬ
つ ま
五郎左衛門妹

一、鳥目五銭老人前屯銭ツ、

吉左衛門
庄兵衛
妻
庄兵衛娘
吉左衛門妹
は 喃
て ん

一、鳥目九銭老人前屯銭ツ、

六郎兵衛
妻
忤子 同 娘 同
熊 甚 甚
は くら
三 左衛門
半 右衛門
妻

一、鳥目四銭老人前屯銭ツ、

次兵衛
妻
娘 忤子
り ん
次 郎 市

一、鳥目六銭老人前屯銭ツ、

作右衛門
妻
母
作右衛門忤子
同 娘 同 娘
丹 介
七 き
な つ

一、鳥目五銭老人前屯銭ツ、

真言宗真福寺住持
隠居
弟子
道心
同
遍 誉
定 遍
良 存
浄 蓮
浄 心

一、鳥目貳銭老人前屯銭ツ、

浄土宗無量寺住持
隠居
鑑 秀
念 誉
人数 合 五百八拾八人
鳥目 合 六百拾貳銭
但目銭共

5 野良田村

一、鳥目拾九銭老人前屯銭ツ、

名主 ✓ 糟谷 猪兵衛
妻
忤子
与惣兵衛
妻
同忤子 源次郎
下人 喜兵衛
同 金三郎
同 五郎左衛門
同 三四郎
同 長九郎
同 吉右衛門
同 吉藏
同 新六
同 女 あかき
下 同 同 同 同 同
あ た ひ あ さ

一、鳥目拾六銭老人前屯銭ツ、

名主 ✓ 糟谷 源左衛門
妻
忤子 源右衛門
妻
源左衛門忤子 茂左衛門
妻
源右衛門娘 いぬ
同 きく
同 さつ
同 ふく
茂左衛門忤子 源太郎
下人 清三郎
同 八兵衛
同 理右衛門
同 弥兵衛
下女 あき

一、鳥目拾四銭老人前屯銭ツ、

年寄 ✓ 糟谷 市右衛門
忤子 市郎兵衛

同 娘 み い
同 か や
七郎兵衛忒子 長 作
下 人 半 兵 衛
同 長 助

一、鳥目五銭老人前忒銭ツ、

市郎右衛門
妻
母
忒子 市 之 助
同 く め

一、鳥目拾銭老人前忒銭ツ、

兵 右 衛 門
妻
弟 小 右 衛 門
妻
兵右衛門忒子 久 左 衛 門
同 娘 せ き
同忒子 七 之 助
同 と め
小右衛門娘 じ や う
同 に わ

一、鳥目四銭老人前忒銭ツ、

五 郎 兵 衛
妻
娘 た つ
同 き く

一、鳥目六銭老人前忒銭ツ、

✓ 彦 右 衛 門
弟 妻 猪 之 助
妹 ね い
彦右衛門忒子 庄 之 助
下 人 長 兵 衛

一、鳥目五銭老人前忒銭ツ、

✓ 次 右 衛 門
忒子 妻 金 十 郎
同 小 傳
下 人 庄 右 衛 門

一、鳥目拾貳銭老人前忒銭ツ、

✓ 権 右 衛 門
忒子 善 兵 衛
妻
権右衛門忒子 三 右 衛 門
妻
善兵衛娘 た ん 女
同 は る

三右衛門忒子 吉 助
同 娘 あ き
下 人 助 太 郎
同 久 兵 衛
同 才 兵 衛

一、鳥目七銭老人前忒銭ツ、

傳 兵 衛
妻
姉
弟 六 兵 衛
姉忒子 三 五 郎
同 六 之 助
傳兵衛忒子 満 太 郎
久 兵 衛

一、鳥目銭

一、鳥目拾三銭老人前忒銭ツ、

✓ 弥次右衛門
妻
忒子権左衛門 後 家
弥次右衛門忒子 弥五左衛門
妻
弥左衛門忒子 弥 次 兵 衛
後家忒子 百 之 助
同 娘 す 右 衛 門
下 人 喜 兵 衛
同 長 五 郎
同 三 郎
下 女 は な

一、鳥目四銭老人前忒銭ツ、

八 右 衛 門
妻
忒子 太 郎
同 権 太 郎

一、鳥目九銭老人前忒銭ツ、

猪 右 衛 門
妻
忒子 弥 右 衛 門
妻
猪右衛門忒子 庄 左 衛 門
同 喜 助
同 角 藏
同 九 之 助
弥右衛門娘 さ ま

一、鳥目九銭老人前忒銭ツ、

✓ 太 郎 兵 衛
妻
母
太郎兵衛娘 あ ま

同 じ や う
同 忒子 虎 之 助
同 桓 之 助
下 人 長 左 衛 門
同 安 兵 衛

一、鳥目拾銭老人前壹銭ツ、

✓ 三郎右衛門
妻
母
三郎右衛門忒子 七郎兵衛
妻
三郎右衛門娘 あ ま
同忒子 源 之 助
七郎兵衛忒子 猪 之 助
下 人 権 四 郎
同 山 三 郎

一、鳥目拾銭老人前壹銭ツ、

七 兵 衛
妻
伯 父 忠 左 衛 門
妻
聲 次 郎 兵 衛
妻
七兵衛忒子 助 太 郎
同 作 之 助
同 娘 き より
次郎兵衛娘 ふ り

一、鳥目四銭老人前壹銭ツ、

七 右 衛 門
妻
母
七右衛門娘 ま つ

一、鳥目六銭老人前壹銭ツ、

文 左 衛 門
妻
忒 子 金 右 衛 門
同 文 右 衛 門
同 娘 ま ん
同忒子 庄 之 助

一、鳥目七銭老人前壹銭ツ、

✓ 権 兵 衛
妻
忒 子 佐五右衛門
妻
忒 子 孫 三 郎
下 人 喜 兵 衛
同 仁 左 衛 門

一、鳥目拾壹銭老人前壹銭ツ、

✓ 平 右 衛 門
妻
母
平右衛門弟 甚 兵 衛
妻
平右衛門娘 じ や う
同 る す
同 み な
甚兵衛娘 き よ
下 人 三 助
同 惣 兵 衛

一、鳥目四銭老人前壹銭ツ、

五郎右衛門
妻
忒 子 辰 之 助
同 勘 十 郎

一、鳥目六銭老人前壹銭ツ、

市 兵 衛
妻
市兵衛娘 母
同忒子 お と
同 娘 か ま て

一、鳥目五銭老人前壹銭ツ、

孫 兵 衛
妻
娘 へ や
忒 子 猪 之 助
同 孫 市
庄兵衛 母

一、鳥目壹銭

一、鳥目六銭老人前壹銭ツ、

戸 右 衛 門
妻
忒 子 孫 右 衛 門
妻
戸右衛門忒子 金 左 衛 門
同 小 兵 衛

一、鳥目七銭老人前壹銭ツ、

五 兵 衛
妻
弟 金 兵 衛
妻
五兵衛娘 あ ま
同忒子 う し
同 娘 で う

一、鳥目三銭老人前壹銭ツ、

真言宗金剛寺住持 本 清

一、鳥目拾壹錢壹人前壹錢ツ、

一、鳥目七錢壺人前壺錢ツ、

一、鳥目三錢壺人前壺錢ツ、

一、鳥目八錢壺人前壺錢ツ、

一、鳥目八錢壺人前壺錢ツ、

同	娘	い	ぬ
同		と	め
同		じ	やう

庄 太 郎

妻母はつく七つ
之
なじま助た

姉 妹 弟 弟 妹
庄太郎 同 同 同 同

一、鳥目拾貳錢壹人前壹錢ツ、

	長左衛門	妻	九郎
弟	長左衛門	妻	五郎兵衛
長左衛門弟	同弟	八右衛門	三太郎
	同粹子	半四郎	つ助
	同	は三午	之助
	長九郎娘		
	同粹子		
五郎兵衛粹子			

一、鳥目四錢壺人前壺錢ツ、

市 兵 衛
市 妻 ね い
姉
市兵衛梓子 牛

一、鳥目拾錢壺人前壺錢ツ、

門いく郎女ん蔵せ太
衛太ん
左さき久たか喜母い甚
八姉妹
✓
八左衛門同甥同娘同人下女同人下

一、鳥目六錢壺人前壺錢ツ、

子	藤妻	衛三郎	門郎
娘	庄喜	三三	郎
娘	こね	ち	よい
悴			
同			
同			
同			

一、鳥目七錢壹人前壹錢ツ、

甚五兵衛
妻
伯父 久右衛門
甚五兵衛妹 はな郎き
同忒子 太 郎
同娘 あ 之助
同忒子 辰

一、鳥目三錢壹人前壹錢ツ、

三九郎
母 久助
三九郎弟

一、鳥目四錢壹人前壹錢ツ、

傳助
母 彌之助
傳助姉
同弟

一、鳥目四錢壹人前壹錢ツ、

喜之助
母 彌之助
喜之助妹
同弟

一、鳥目四錢壹人前壹錢ツ、

傳兵衛
妻 まくに
妹
傳兵衛娘

一、鳥目九錢壹人前壹錢ツ、

勘右衛門
妻 半兵衛
弟
勘右衛門娘
同 是ま郎り蔵
同忒子 勤 三 郎
同娘 ふ 八 蔵
半兵衛忒子 八 誕 譽
(鳥目のこと脱力) 浄土宗傳乗寺住持
下人 九 蔵
人数 合 百拾貳人
鳥目 合 百拾六錢
但目錢共

7 下野毛村

一、鳥目拾七錢壹人前壹錢ツ、

庄屋 ✓ 戸居田三郎兵衛
父 三左衛門
母

三郎兵衛忒子 権 三郎
同 又 三 松
同 竹 之 介
同娘 は な つな
同 妹 ま さ 蔵
同 下 人 仁 兵衛
同 久 け
同 同 す 介
同 同 三 ち
同 同 く ひ さ
同 女 ひ や
同 じ う

一、鳥目六錢壹人前壹錢ツ、

年寄 ✓ 原 猪右衛門
妻
母 安左衛門
弟 同 久左衛門
下人 長 四郎

一、鳥目九錢壹人前壹錢ツ、

✓ 加藤 弥五左衛門
妻 武右衛門
忒子 武 う し
忒子 竹 松
同娘 かけ つ
同人 左 兵衛
同 九 兵衛

一、鳥目五錢壹人前壹錢ツ、

清兵衛
妻 三 介
忒子 喜 太 郎
同 喜 う し

一、鳥目六錢壹人前壹錢ツ、

猪兵衛忒子 猪兵衛
同娘 妻 母
同 七 兵衛
あ へ まん

一、鳥目九錢壹人前壹錢ツ、

三郎右衛門
妻
母

三郎右衛門忒子 所 左 衛 門
 妻
 三郎右衛門娘 は な
 同 り ん
 所左衛門忒子 八 十 郎
 同 娘 な つ
 一、鳥目五銭老人前沓銭ツ、
 長 四 郎
 妻
 忒子 と ら
 娘 へ や
 同 ゆ り
 一、鳥目五銭老人前沓銭ツ、
 庄 左 衛 門
 忒子 庄 次 郎
 妻
 庄次郎忒子 喜 太 郎
 同 娘 ね い
 一、鳥目式銭老人前沓銭ツ、
 八 郎 兵 衛
 妻
 一、鳥目五銭老人前沓銭ツ、
 一 郎 兵 衛
 妻
 忒子 と ら
 娘 こ ち よ
 同 く に
 一、鳥目四銭老人前沓銭ツ、
 甚 右 衛 門
 妻
 母
 甚右衛門弟 五 兵 衛
 一、鳥目拾銭老人前沓銭ツ、
 勘 右 衛 門
 妻
 母
 勘右衛門忒子 勘 太 郎
 同 う め
 同 娘 か つ
 同 弟 庄 之 介
 同 妹 七 兵 衛
 同 な つ
 同 て う
 一、鳥目六銭老人前沓銭ツ、
 三 右 衛 門
 妻
 忒子 才 兵 衛
 同 太郎左衛門

同 甚 左 衛 門
 同 七 兵 衛
 一、鳥目五銭老人前沓銭ツ、
 彦 右 衛 門
 妻
 忒子 べ ん
 同 九 十 郎
 娘 て う
 一、鳥目四銭老人前沓銭ツ、
 新 五 郎
 妻
 忒子 猪 之 介
 娘 り ん
 一、鳥目七銭老人前沓銭ツ、
 弥 五 兵 衛
 妻
 忒子 弥 右 衛 門
 同 と ら
 同 ご ん
 娘 つ や
 同 て う
 一、鳥目八銭老人前沓銭ツ、
 左五右衛門
 妻
 父 清 右 衛 門
 左五右衛門忒子 久 右 衛 門
 同 ま つ
 同 娘 き ん
 同 よ ね
 同 き よ
 一、鳥目四銭老人前沓銭ツ、
 与 作
 母
 与作姉 太 郎
 同 弟 べ
 一、鳥目五銭老人前沓銭ツ、
 市 兵 衛
 妻
 父 五 左 衛 門
 市兵衛忒子 勘 太 郎
 同 娘 せ き
 一、鳥目六銭老人前沓銭ツ、
 半 兵 衛
 妻
 忒子 権 十 郎
 同 ご ん
 同 太 郎
 同 半 三 郎

